



取扱説明書

■レシプロコンプレッサ

タンクマウント形

TLPC07BF-10

TFU07BF-7

TFP07BF-10

TFPC07BF-10

TFU07-7 (単相100V)

TFP07B-10 (単相100V)

TFPC07B-10 (単相100V)

ポータブル形

PFU07-7 (単相100V)

PLU15BF-7

このたびは、レシプロコンプレッサをお買い上げいただきましてありがとうございます。

- ご使用前に本書を必ずお読みください。
- 本書は、お読みになった後も大切に保管してご活用ください。

※下表に必要事項をご記入ください。

修理・サービスの際に必要となります。

形式 MODEL	
製造番号 SERIAL No.	
購入先	
購入年月	年 月 日
使用開始日	年 月 日

残留リスク




■ 機械ユーザによる保護対策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品形式: TLPC07BF-10 TFU07BF-7 TFP07BF-10 TFPC07BF-10 PFU07-7
PLU15BF-7 TFU07-7 TFP07B-10 TFPC07B-10

2019年03月01日 作成 アネスト岩田株式会社




※ご使用の前に必ず本書全体をよく読み、内容を十分に理解したうえで本製品を使用してください。
この資料は参考資料です。本資料の内容を理解しただけで本製品を使用しないでください。




残留リスクは、下記の定義に従って記載しています。




- ・  危険: 保護対策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・  警告: 保護対策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・  注意: 保護対策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容




図中に示されている箇所の記号及び番号は、「■ 機械ユーザによる保護対策が必要な残留リスク一覧」に記載されているものと一致しています。各残留リスクの詳細については、P2を参照してください。




TLPC07BF-10, TFU07BF-7, TFP07BF-10, TFPC07BF-10, TFU07-7, TFP07B-10, TFPC07B-10

箇所 A	 危険	
	 警告	No3
	 注意	




箇所 E	 危険	
	 警告	No6,7,8,9
	 注意	




箇所 C	 危険	
	 警告	No4,5
	 注意	




箇所 D	 危険	
	 警告	No10
	 注意	




箇所 B	 危険	
	 警告	No1,2
	 注意	




PFU07-7, PLU15BF-7

箇所 A	 危険	
	 警告	No3
	 注意	

箇所 E	 危険	
	 警告	No6,7,8,9
	 注意	

箇所 C	 危険	
	 警告	No4,5
	 注意	

箇所 D	 危険	
	 警告	No10
	 注意	

箇所 B	 危険	
	 警告	No1,2
	 注意	

残留リスク

■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスク一覧 (略称: 残留リスク一覧)

製品形式: TLPC07BF-10 TFU07BF-7 TFP07BF-10 TFPC07BF-10 PFU07-7
PLU15BF-7 TFU07-7 TFP07B-10 TFPC07B-10

2019年03月01日 作成 アネスト岩田株式会社

※ご使用前に必ず本書全体をよく読み、内容を十分に理解したうえで本製品を使用してください。
この資料は参考資料です。本資料の内容を理解しただけで本製品を使用しないでください。

残留リスクは、下記の定義に従って記載しています。

- ・⚠ 危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・⚠ 警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・⚠ 注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

「機械上の箇所」列に示した記号は、「■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ」に記載されている機械上の箇所の記号です。機械上の具体的な箇所についてはP 1を参照してください。

No.	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所	危害の程度	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱説明書のページ
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスを実施する時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	感電する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護ガードを外して運転しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・アースを必ずとる。 ・規定サイズの漏電遮断器を使用する ・ナイフスイッチ等のヒューズ保護スイッチは使用しない。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P15 P15 P7・P15 P15 P6・P15 P17・P22
2	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスを実施する時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・規定以外の電源用ケーブルは使用しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P15 P15 P6・P15 P17・P22
3	運転 保守	運転する時 メンテナンスを実施する時	-	A	警告	ベルト、プーリ、ファンに手や工具等を近づけると巻き込まれケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガードを取り外して運転しない。 ・作業に入る場合には、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P7 P6・P22

残留リスク

No.	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所	危害の程度	危害の内容	機械ユーザーが実施する保護方法	取扱説明書のページ
4	運転 保守	運転する時 メンテナンス を実施する時	-	C	警告	圧縮空気が噴出したり、物が飛散することでケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護ガードを外して運転しない。 ・安全弁のチェック時に安全弁に顔を近づけない。 ・制御機器・安全弁の設定を無断で変更しない。 ・作業前には必ず圧縮機の空気をすべて抜き、圧力がないことを確認する。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P7 P7 P22 P7 P22
5	運転	運転する時	-	C	警告	圧縮空気を吸引して障害を負う。また、圧縮機周辺の大気中有毒ガス等が含まれていると、同じものが圧縮空気にも含まれるため吸引すると人体に重大な影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。 ・周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。 	P7 P6
6	運転	運転する時	-	E	警告	圧縮機が故障すると人命にかかわる設備が止まり人体に重大な損傷を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を人命にかかわる設備に使用しない。 	P7
7	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンス を実施する時	-	E	警告	爆発・発火しケガ、火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、可燃物の付近に設置しない。 ・腐食性ガスのある場所に設置しない。 	P7,P12 P6
8	運転 保守	運転する時 メンテナンス を実施する時	-	E	警告	感電する。発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外に設置しない。 ・雨・蒸気が当たる場所、湿度が高い場所、結露しやすい場所に設置しない。 ・ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。 	P6 P12 P6
9	準備	設置する時	-	E	警告	コンプレッサが落下して挟まれたり下敷きになりケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・質量に十分耐えられる(余裕のある)吊り具を使用する。 ・重心位置を考慮しバランスよく吊り上げる。 	P12
10	運転	運転する時	-	D	注意	高温部に触れて火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・運転中や運転直後のコンプレッサ各部に手を触れない。 	P18

はじめに

■重要なお知らせ

この取扱説明書には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。







警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●絵表示例

	この記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。		(左の例は感電注意)
	この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。		(左の例は接触禁止)
	この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。		(左の例は必ずアース線を接続せよ)

●補足表示

	お願い この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。
	ワンポイント この記号は、知っているのと役に立つ知識、アドバイスなどを示しています。

※警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害および損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承ください。

●この商品の保証について

※巻末に保証と修理サービスについての説明があります。内容をよくお読みください。

●法律による届出(騒音規制法 および 振動規制法)

※詳細は 25ページをご覧ください。

目次

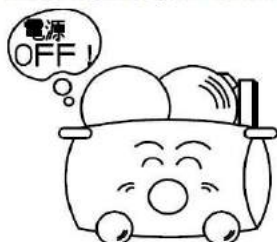
残留リスク		日常運転の管理	
■残留リスクマップ	1	■運転開始	18
■残留リスク一覧	2~3	■運転中	18
		■運転終了	19
はじめに		保守点検	
■重要なお知らせ	4	■保守・点検一覧表	20~21
		■機能点検	22
目次	5	■点検・清掃上の注意	23
		■組立上の注意	23
安全上のご注意		■部品の購入について	23
■警告	6~7	故障かな?と思ったら	
■注意	8	■コンプレッサ	24
■警告表示貼り付け位置	9		
■形式の見方	10	法律による届出	
■付属品一覧	10	■参考法規	25
		■公害防止条例による設置届	25
各部の名称			26
■各部の名称	11	空気タンク点検記録	26
設置場所		立体分解図	
■警告	12	■レシプロコンプレッサ(F07-10 SP)	27
■お願い	13	■レシプロコンプレッサ(F07-10 SU)	28
		■レシプロコンプレッサ(CS-150P SP)	29
配管		■レシプロコンプレッサ(L15-10)	30
■吐出し側配管	14	■レシプロコンプレッサ(TLPC07BF-10)	31
■2台以上の並列設置	14	■レシプロコンプレッサ	32
		(TFU07BF-7 TFU07-7)	32
配線	15	■レシプロコンプレッサ	33
		(TFP07BF-10 TFP07B-10	33
試運転		TFPC07BF-10 TFPC07B-10)	33
■準備	16	■レシプロコンプレッサ	34
■回転方向の確認	16~17	(PFU07-7 PLU15BF-7)	34
■制御圧力の確認	17		
		メモ	
		保証と修理サービス	
		■保証について	
		■修理サービスについて	
		■お問い合わせについて	

安全上のご注意

ここに示した内容は、安全に関する重大な内容ですので、ご使用前に、よくお読みのうえ正しくお使いください。

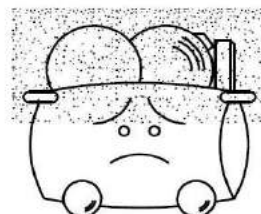
警告

電装箱を開ける場合や配線作業・点検のときは、必ず元電源を切ること。
(電装箱の先の電源を遮断する)
※感電の危険があります。



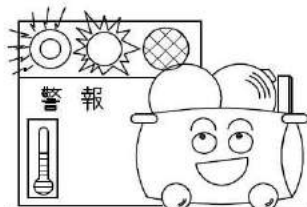
電源の遮断

塵埃(鉄粉、木屑、砂塵、粉塵など)の少ない
場所で使用すること。
※堆積したほこり等に発火する恐れがあります
※部品の摩耗・寿命低下や故障の原因となり
ます。



塵埃のない
場所で使用

重要設備等に使用される場合は、圧縮機の
予期せぬ停止に備え、必ず予備機やそれに替
わる装置および安全装置を装備してください。
※重大な損害を与える危険があります。



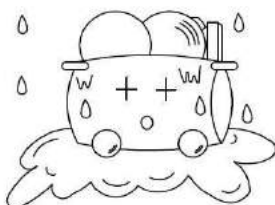
予備機
の準備

腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜
硫酸ガスなど)のない場所に設置してください。
※圧縮機本体・セット部品・空気タンクの発錆・腐
食・寿命低下・破損・破裂の原因となります。



腐食ガスの
ない場所

屋外には設置しないこと。
※本製品は耐水構造になっていません。
電気系統に雨水がかかると漏電や火災
事故を起こすおそれがあります。



屋外設置禁止

人体に有害なガスがない場所に設置する。
※有害なガスがコンプレッサにより圧縮して吐出
された場合、人体に重大な障害がおこる可能性
があります。



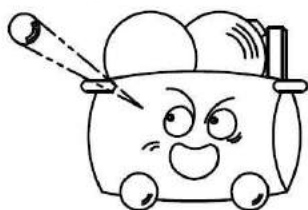
設置禁止

安全上のご注意

警告

点検・整備を行う場合には空気タンクの圧力を必ず放出し圧力がないことを確認してから実施してください。

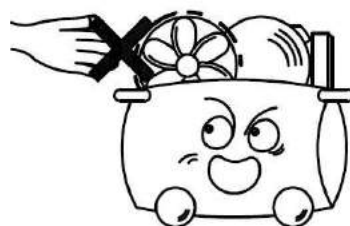
※部品が圧力で飛びケガをするおそれがあります。



圧力確認実施

元電源が入った状態で回転部(プーリー・ベルト)に手を触れないこと。

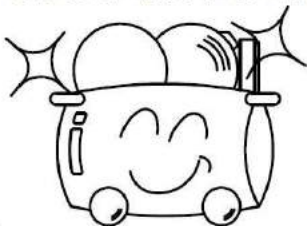
※手が巻込まれて大ケガをするおそれがあります。



接触禁止

定期的に保守点検を行うこと。
(20～23ページ参照)

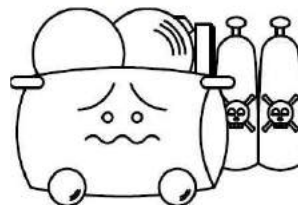
※火災や破損事故の原因となります。



保守点検実施

爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)可燃物のない場所に設置すること。

※爆発・発火の原因となります。



安全な場所に
設置する

空気以外の気体の圧縮には
絶対に使用しないこと。

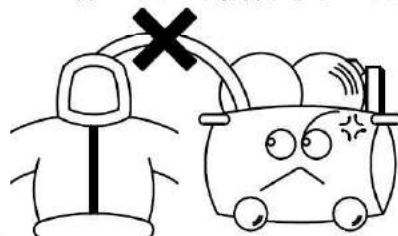
※爆発・火災・破損の原因
となります。



空気以外の
ガスの
圧縮禁止

圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器や
人命に関わる機器には使用しないこと。

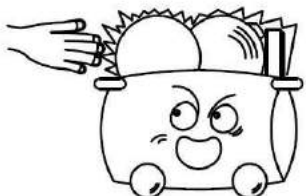
※人体に重大な損害を与える危険があります。



使用禁止

アースの配線を必ず行うこと。

※感電事故や火災の原因となります。



アース工事实施



安全確認の実施

エアコンプレッサは、製造生産設備等に圧縮空気を供給するための製品です。圧縮空気は大きなエネルギーを持っているため、人体に向けてむやみに噴射すると、失明や死亡などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。着衣の上からであっても同様です。人体に向けて噴射する必要がある場合、十分な安全対策を講じた設備・装置・器具類を使用し、それらの取り扱い要領に従って、十分に注意してご使用ください。

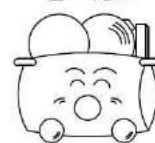
安全上のご注意

⚠ 注意

❗ 規定温度で使用する

周囲温度が2～40℃(運転中)の場所で使用のこと。
※2℃以下ではドレン凍結により故障の原因となります。
40℃以上では、寿命低下や破損事故の原因となります。

2～40℃



❗ 設置を安定化する

水平な場所に設置すること。
※潤滑不良で焼き付きの原因となったり、不安定で車輪が浮いていると、異常振動や異音が発生する原因となります。

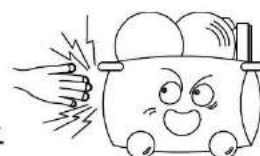


🚫 高温部の接触を禁止する

運転中や停止直後は圧縮機各部に直接手を触れないこと。
※火傷するおそれがあります。

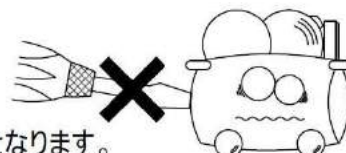


接触禁止



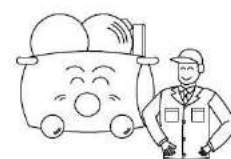
🚫 改造を禁止する

製品の改造はしないこと。
※故障事故や寿命低下の原因となります。改造製品は保証の対象外となります。



❗ 修理を依頼する

修理は専門の業者に依頼すること。
※修理に不備があると破損事故や寿命低下の原因となります。

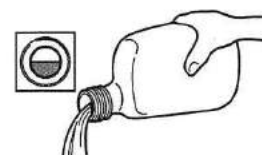


【給油式の場合】

❗ 油量を確認する

運転前また運転後毎日潤滑油量を確認すること。
不足の場合は補給すること。

※潤滑不良で焼き付きによる破損事故の原因となります。



❗ 指定潤滑油・純正部品を使用する。

潤滑油および交換部品は指定の品物を使用すること。
※指定以外の潤滑油を使用すると異常なカーボンの発生などにより爆発・発火のおそれがあります。



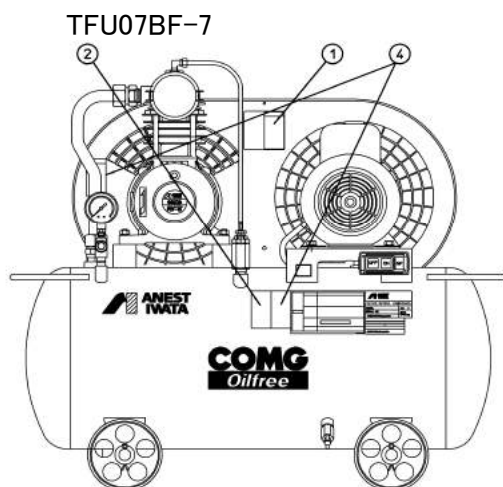
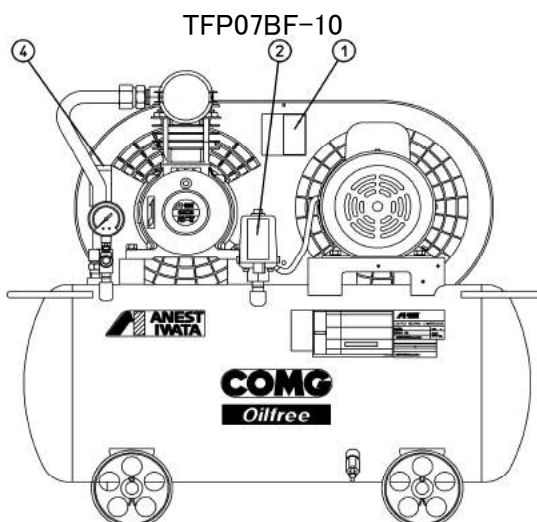
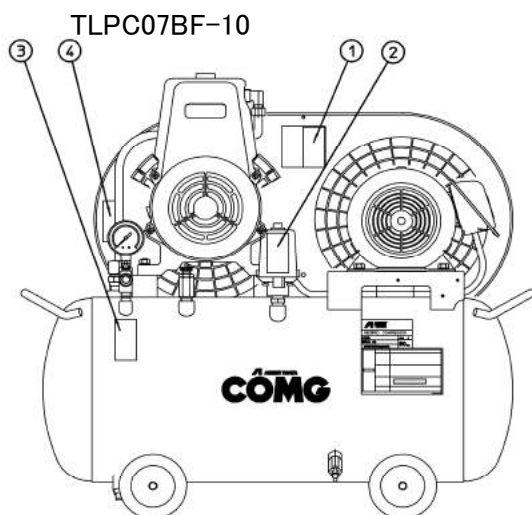
安全上のご注意

■警告表示貼り付け位置

警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。銘板は、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。

下図は代表的な形式を図示したものです。形式により、外観形状と貼り付け位置が異なります。

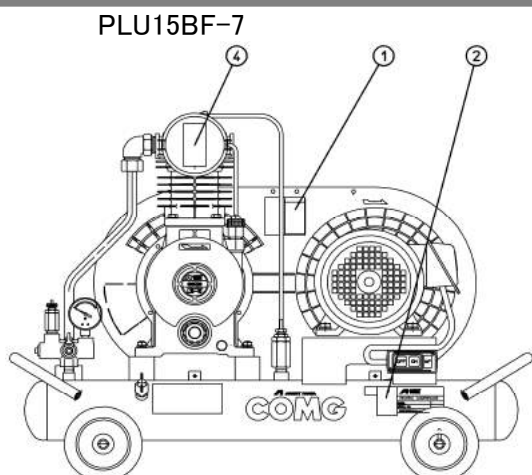
■タンクマウントタイプ



① コード No.91707891 ② コード No.92664010



■ポータブルタイプ

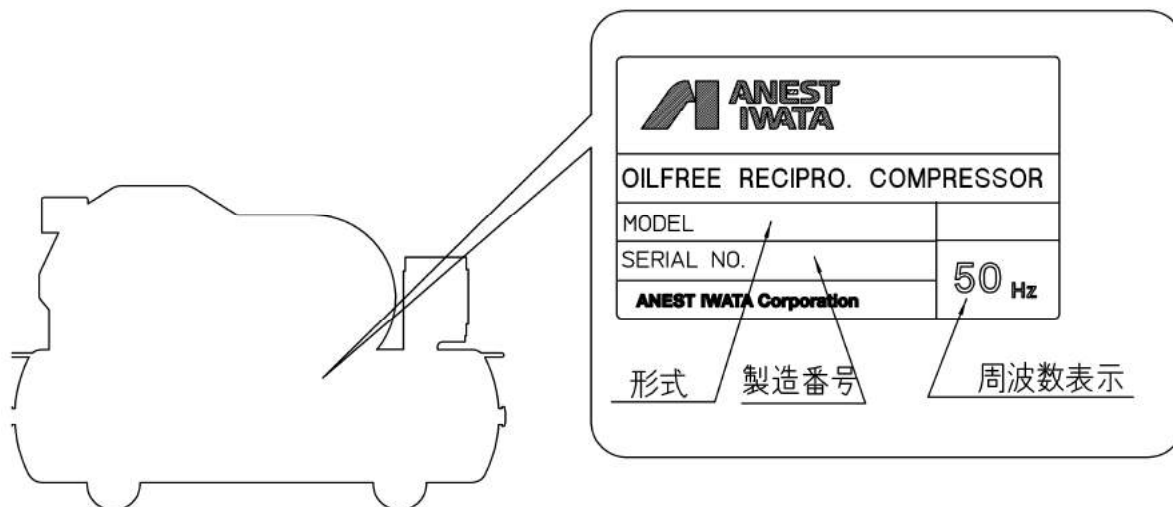


③ コード No.91708891 ④ コード No.91709891



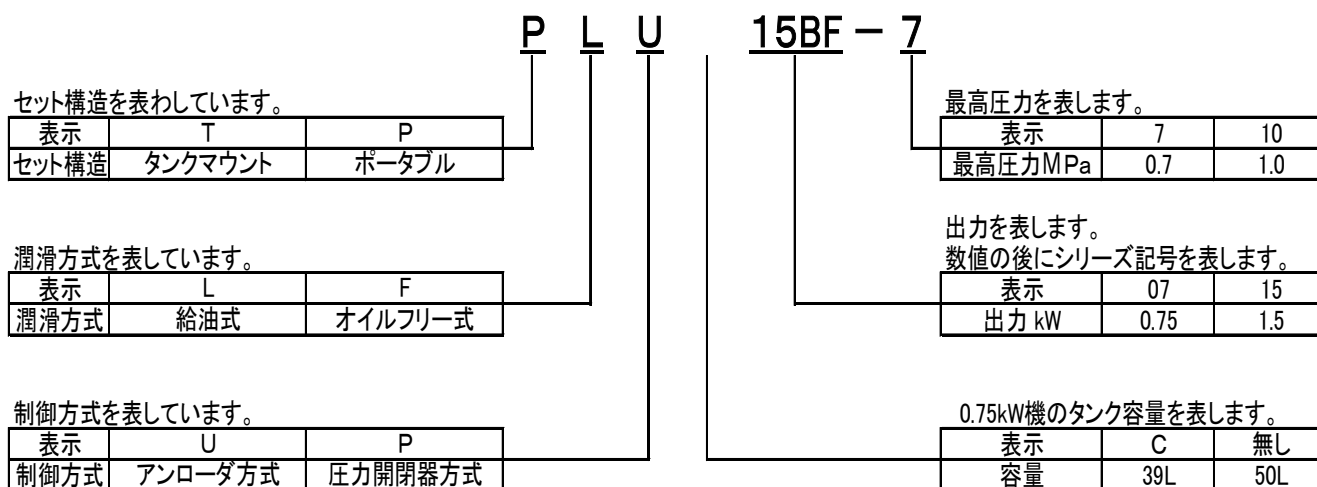
安全上のご注意

形式・周波数がご注文どおりか、現品を確認してください。



輸送中に変形や破損した箇所がないか確認してください。

■形式の見方



■付属品一覧

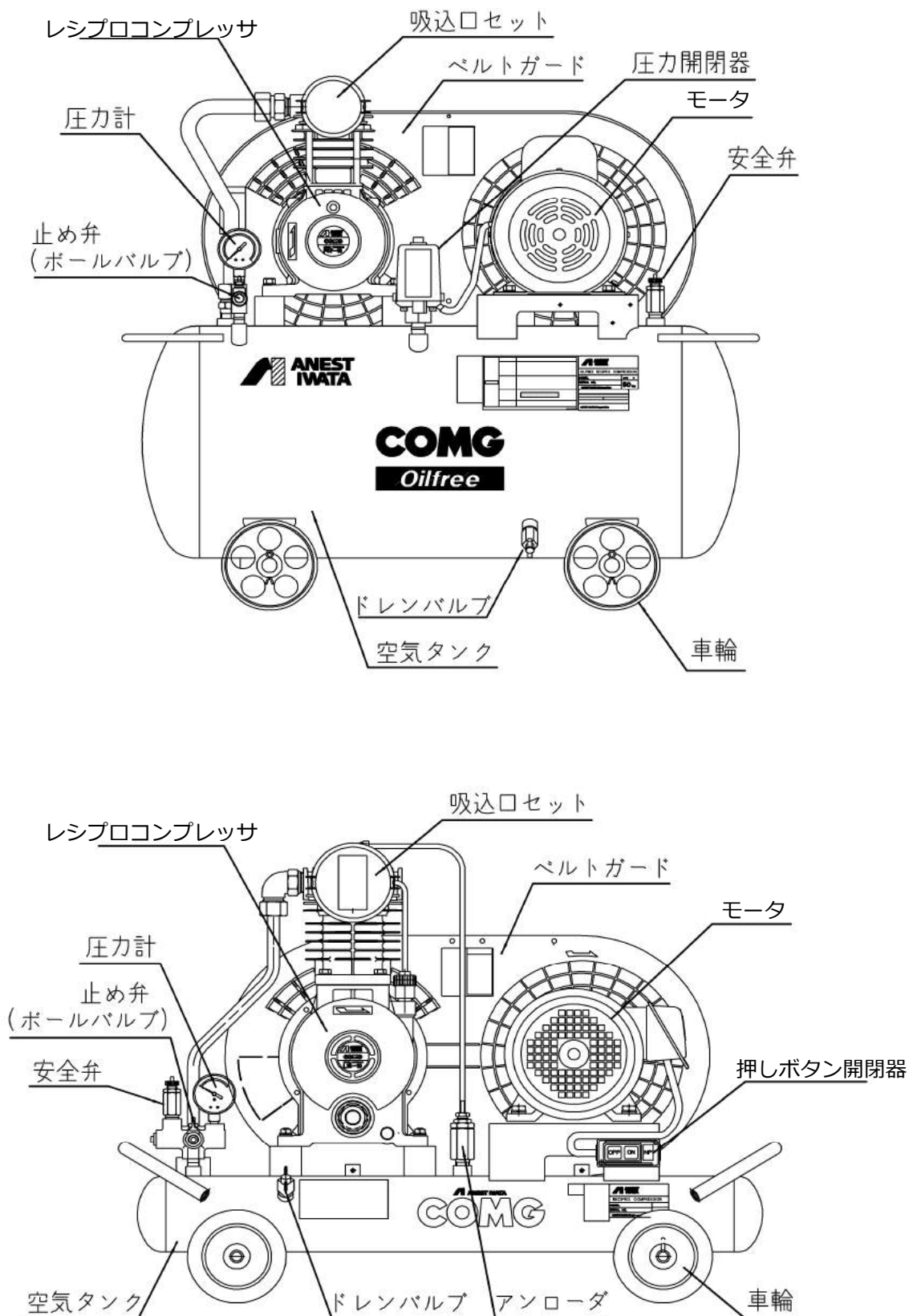
付属品が全てあるか、確認してください。

- | | | |
|--------------|----|------------------------|
| ◎ 取扱説明書 | 1部 | |
| ◎ 電動機取扱説明書 | 1部 | …200V仕様の製品に付属されています。 |
| ◎ 第二種圧力容器明細書 | 1部 | …タンク容量50Lの製品に付属されています。 |
| ◎ タンク寸法表 | 1部 | …タンク容量50Lの製品に付属されています。 |

各部の名称

代表形式を表示しておりますので、形式により構成部品や外観形状が異なります。

■各部の名称



設置場所

警告

室内で湿気の少ない場所に設置してください。

- 雨水がかかったり、湿気の多い場所(湿度85%以上)では、漏電や火災事故を起こす危険があります。



水気厳禁

近くに発火性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンなど)など可燃物のない場所に設置してください。

- 不適切な環境で使用すると、爆発・発火事故の原因になります。



安全な場所に
設置する

周囲温度が2℃～40℃で腐食ガス・直射日光の当たらない場所
でご使用ください。

- 2℃未満の使用は、起動不良やドレンの凍結によりレシプロコンプレッサ各部に作動不良が発生する原因となります。
2℃未満で使用する時は、当社支店・営業所に お問い合わせください。
- 40℃を超えた環境での使用は、部品の寿命を低下させ破損事故を起こすことがあります。
- 腐食性ガスの雰囲気での使用は、レシプロコンプレッサの寿命低下の原因となりますので、換気に十分ご注意ください。



規定温度で
使用する

水平で基礎が確実な場所を選び、車輪は4個とも床面に
付くように設置してください。

また、車輪止めなどによる固定はしないでください。

- 傾きの大きい場所に設置すると、給油式の場合本体内部のオイルかき上げに影響し潤滑油不足による焼き付きの恐れがあります。
- 不安定な場所に設置する場合(車輪が浮いているなど)は、鉄板等の金属板を車輪の下に敷き、車輪が確実に接地するように調整してください。
- 市販のゴムマット、防振パッドやコの字型鋼材の上には設置しないでください。異常振動、異音、レシプロコンプレッサ破損および空気タンクの亀裂が発生する原因となります。



設置を
安定化する

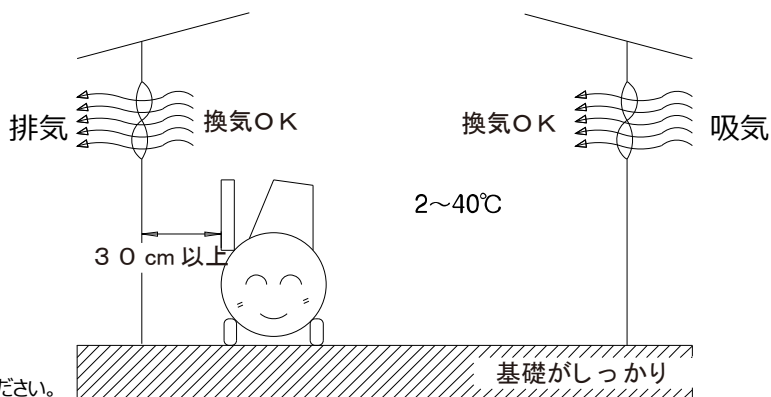
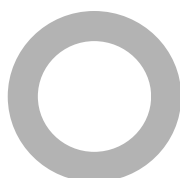
●換気風量について

コンプレッサ出力 [kW]	全体換気量 [m ³ /min]
0.75	10
1.5	15

※室内温度上昇を5℃に抑えた場合です。

※この換気量は静圧が0のときの値です。

実際の選定にあたっては、この数値以上のものを選定してください。



設置場所

📖 お願い

ベルトガード側は壁面と30cm以上離して設置してください。

- 壁面に近い場所に設置すると、レシプロコンプレッサの冷却効果が低下し、寿命低下の原因となります。



密着設置
禁止

ごみやほこりの少ない場所に設置してください。

- 鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸込フィルタの目詰まりによる性能低下やレシプロコンプレッサ内部の異常摩耗による破損事故の原因となります。
- 堆積した可燃物の発火の恐れがあります。



塵埃の
ない場所に
設置する

保守・点検が容易にできる場所に設置してください。

- レシプロコンプレッサの周囲で作業員が十分に点検できるスペースを確保してください。



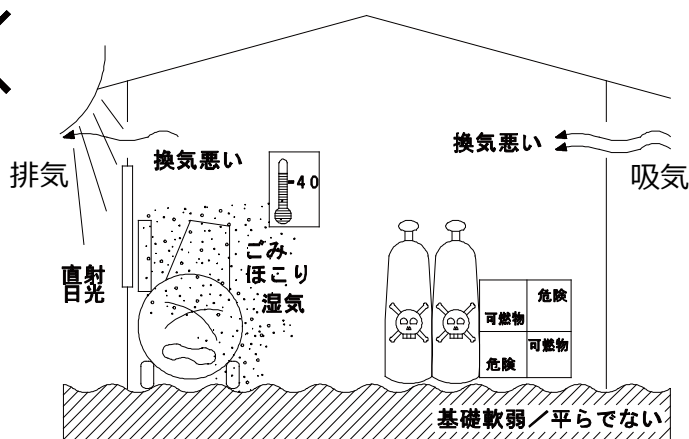
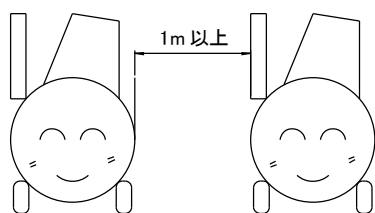
スペースを
確保する

2～3台を並列に並べて運転する場合は、間隔を1m以上あけて設置してください。

- レシプロコンプレッサ同士が温度影響を受け、レシプロコンプレッサの寿命低下の原因となります。



スペースを
確保する



- ※次の場合は、必ず
当社支店・営業所にご相談ください。
- 屋外で使用する場合。
 - 制御圧力を変更する場合。
 - その他、特殊な用途・場所で使用する場合。

配管

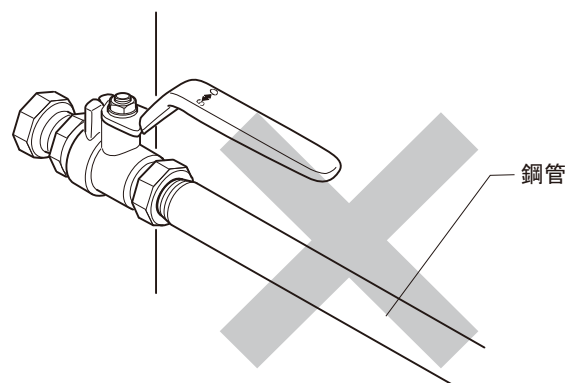
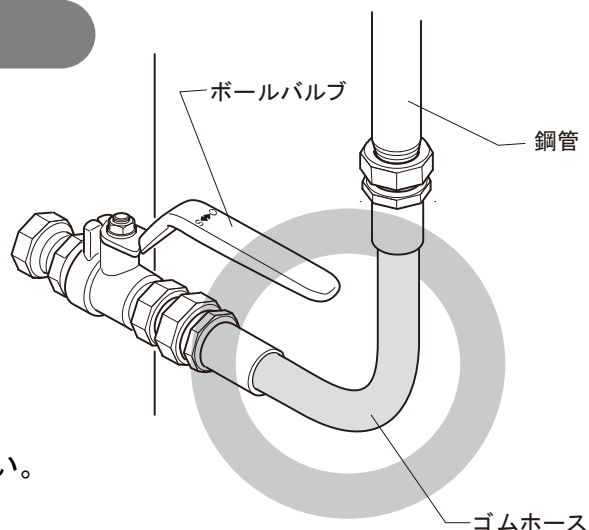
■吐出し側配管

鋼管で配管する場合は、コンプレッサのボールバルブと鋼管の間をゴムホースやフレキシブルチューブで中継してください。

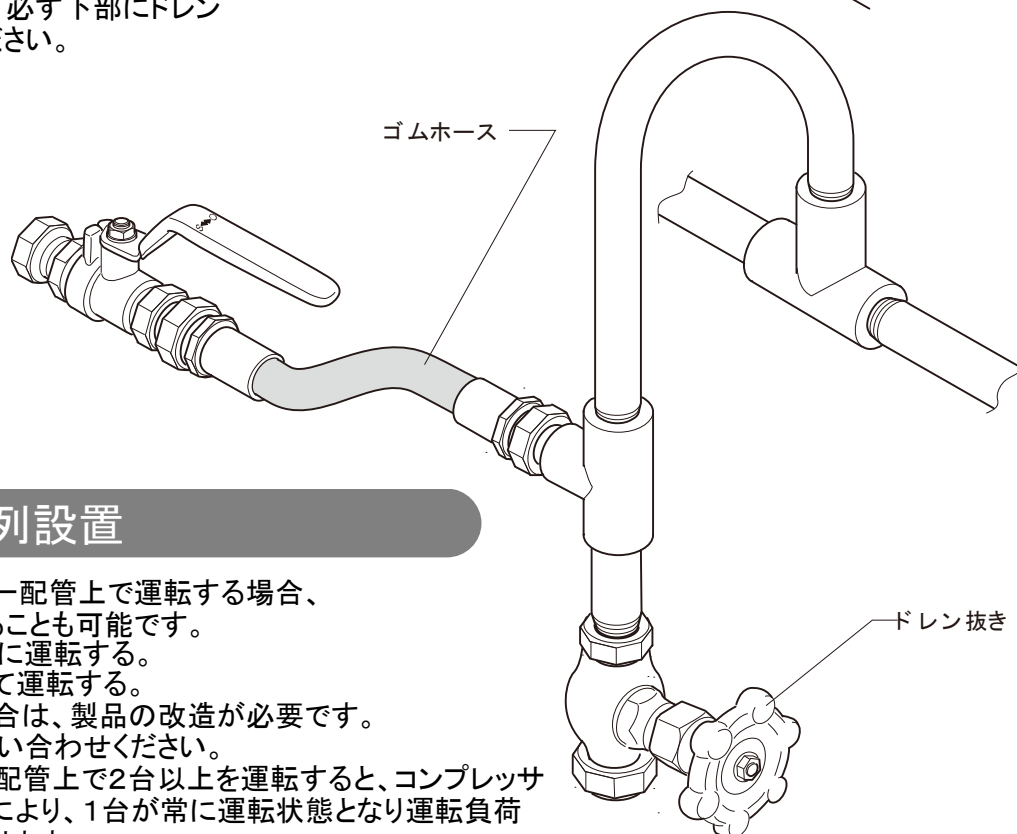
- 鋼管に直接接続すると、振動により配管に亀裂を生じたり、コンプレッサの振動に悪影響を与えたりすることがあります。

ゴムホースは、オイルフリー用ゴムホース(JIS K-6332)または酸素用ゴムホース(JIS K-6333)をご使用してください。

- ホースの両端に使うネジ継手は、ホースメーカー指定のものをご使用ください。



立ち上り配管がある場合は、必ず下部にドレン溜りとドレン抜きを設けてください。



■2台以上の並列設置

2台以上のコンプレッサを同一配管上で運転する場合、以下のような方法で運転することも可能です。

- 全てのコンプレッサを均等に運転する。
- 主運転と予備運転に分けて運転する。

※上記の方法で運転する場合は、製品の改造が必要です。

当社支店・営業所までお問い合わせください。

※特別の配慮をせずに同一配管上で2台以上を運転すると、コンプレッサ制御装置の微妙な圧力差により、1台が常に運転状態となり運転負荷が集中してしまう場合があります。

配線

警告

- 配線作業は、必ず元電源を切って行なってください。
※感電の危険があります。
 - 電気配線工事は、電気工事士又は、電気工事店に依頼してください。
※感電や思わぬ事故の危険があります。
- 電源は必ず下表の漏電遮断器を通して1台ごと単独で接続してください。電源の遮断 有資格者に
また配線の容量に従ったケーブルを必ずご使用ください。 依頼する



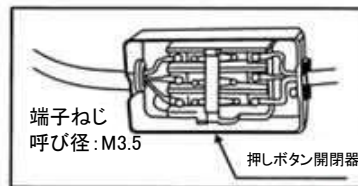
配線容量は右表の通りです。

- TLPC、TFPC、TFP形の三相200Vのものには電源コードを付属しています。他のコンプレッサにおきましては別途ご準備ください。
- 配線が長すぎたり、右表より細い場合には、電圧が低下しモータが起動しなかったり、加熱して焼損の原因となります。電圧降下が2%以内となるよう配線してください。
- 元電源とコンプレッサの間には、電源保護用の漏電遮断器を通して配線してください。
- 特に0.75kW100V仕様のコンプレッサは、電圧(低・高)の影響を強く受け、モータ焼損の原因となるためご注意ください。
- 電源コードを、右記のように圧力開閉器又は押しボタン開閉器の端子にゆるみや外れがないようにしっかりと接続してください。
- 接続が不十分ですと接続部が加熱したり、モータの焼損事故の原因となります。
- 進相コンデンサの使用は推奨しておりません。
- インバータおよび発電機など電圧が不安定となる電源での運転は行わないでください。

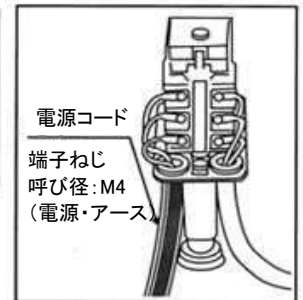
出力 (kW)	電源	配線の容量			
		配線の 最小太さ	アース線の 最小太さ	漏電遮断器 定格電流	モータブレーカ 定格電流
0.75	単相 100V	3.5mm ²	2.0mm ²	30A	16A
	三相 200V	0.75mm ²		15A	4A
1.5	三相 200V	1.25mm ²	2.0mm ²	30A	7.1A

※配線の太さ、漏電遮断器定格電流は内線規程に準拠したものです。
※配線の太さは、キャプタイヤケーブルで長さが20m以下を基準としたものです。

アンローダ方式
(TFU,PLU,PFU形)



圧力開閉器方式
(TFP,TFPC,TLPC形)



注) 100V仕様の場合の結線は真ん中に配線されず上下となります。

警告

配線作業で外した電気機器のカバーは、配線後に必ず元に戻してから運転してください。蓋がない状態で運転しないでください。
※感電や火災の原因となります。



運転禁止

警告

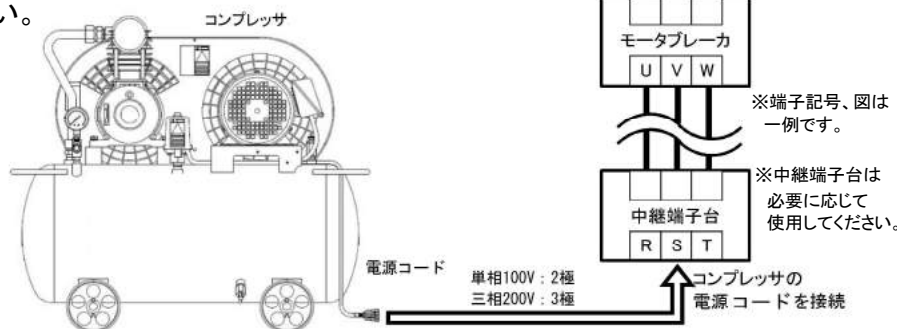
アースは必ず接続してください。
アンローダ方式はモータ脚部(呼び径M5)、
圧力開閉器方式は圧力開閉器内部にあります。
※感電や火災の原因となります。



アースの接続

コンプレッサにモータ保護装置を搭載しておりません。
別途、コンプレッサ外部で必ず保護してください。

- 保護がない場合、モータが焼損する原因となります。
- 本項に示す保護装置や配線材、手元SW、中継端子台などはお客様側にてご準備ください。
- 漏電遮断機能が付いたモータブレーカも使用できます。
- 配線例は、下図を参照してください。



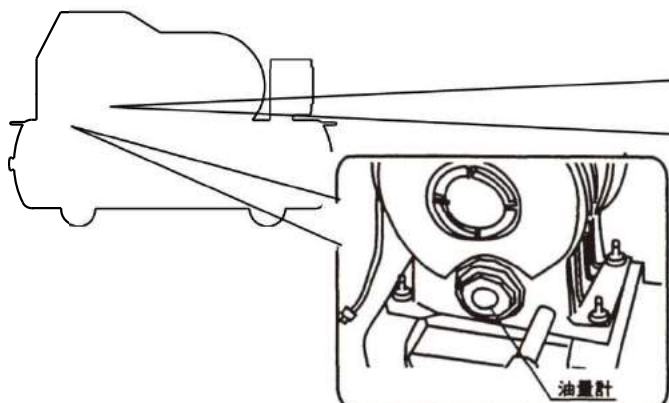
試運転

■ 準備

【給油式の場合】

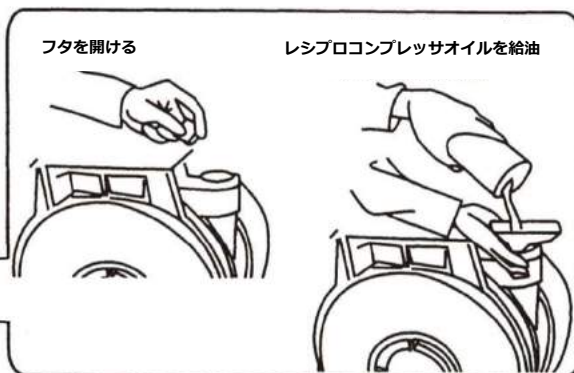
潤滑油量を油量計で確認して、不足している場合は、アネスト岩田のレシプロコンプレッサオイルを補給してください。

※潤滑不良で焼付きによる破損事故の原因となります。

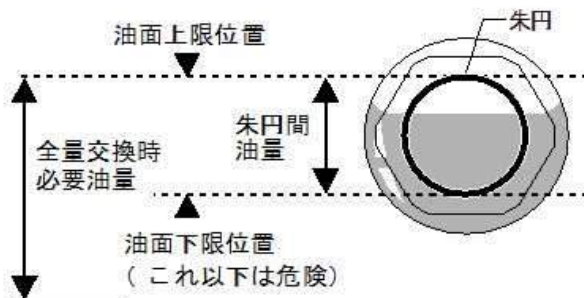


形式により油量計の取り付け状態が図と異なります。

出力(kW)	全量交換時の必要油量 (L)	朱円間の油量(L)
0.75	0.5	0.25
1.5	0.8	0.4



※油量計の見方



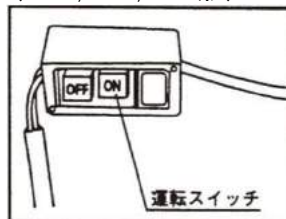
■ 回転方向の確認

運転スイッチを入れ数秒間運転して回転方向を確認してください。

回転方向は図のとおりです。

- 0.75kW単相電動機搭載機は回転方向が必ず正常な状態になりますので、確認は不要です。

アンローダ方式 (TFU, PLU, PFU形)



圧力開閉器方式 (TFP, TFPC, TLPC形)

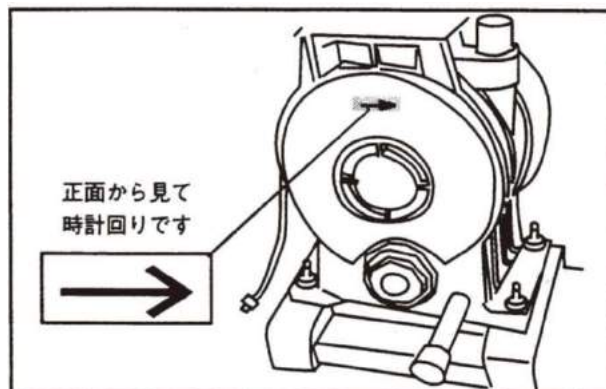


📖 お願い

正しい回転方向で運転してください。
 ※回転方向が逆だとコンプレッサの冷却が行なわれず、過熱によりオイル消費量の増加やコンプレッサの寿命低下の原因となります。



回転方向の確認




試運転

- 回転方向が逆の時は接続した電源コード3本のうち2本を入れ替えてください。

⚠ 警告

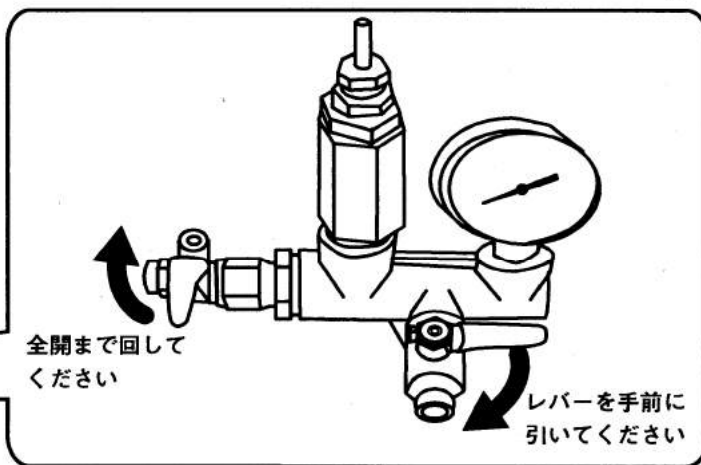
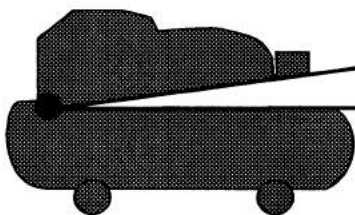
配線の入れ替え作業は、必ず元電源を切って行なってください。
※感電の危険があります。



電源の遮断

コンプレッサの試運転を10分程行ってください。

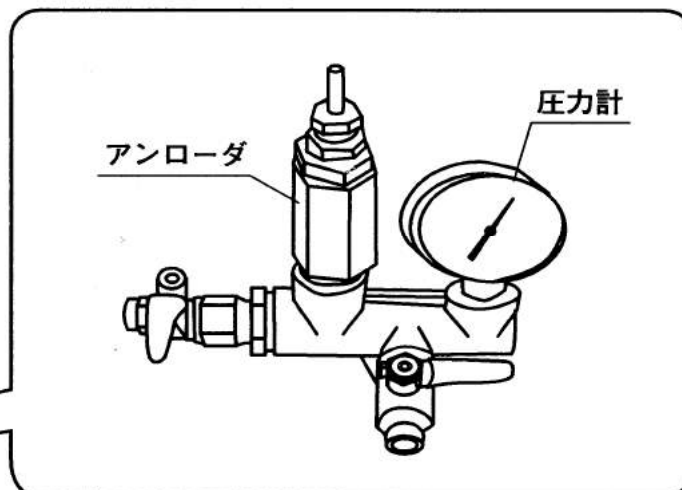
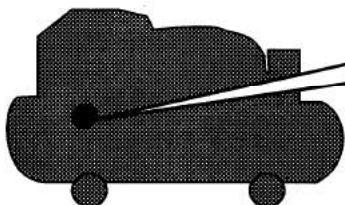
- 止め弁は全開のままで行なってください。
- 異常音や振動がないか確認してください。



形式により、止め弁の形状が異なります。

■ 制御圧力の確認

- 止め弁を閉じて、空気タンクの圧力が上昇するのを圧力計で確認してください。
- 定格圧力範囲(圧力計の緑帯の上限)でアンローダまたは圧力開閉器が作動し、圧力の上昇が止まるのを確認してください。



止め弁を開いて、空気タンクの圧力を徐々にさげてください。

- 圧力計の針が復帰圧力まで降下した時、アンローダまたは圧力開閉器が作動し、運転を再開することを確認してください。
 - 作動圧力が22ページ『機能点検』の設定圧力より外れている時は、アンローダまたは圧力開閉器の設定が狂っています。
- お買い上げの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。

日常運転の管理

■ 運転開始

⚠ 警告

運転前に油量を確認し、不足の場合は
アネスト岩田のレシプロコンプレッサオイルを
給油してください。(給油式の場合)

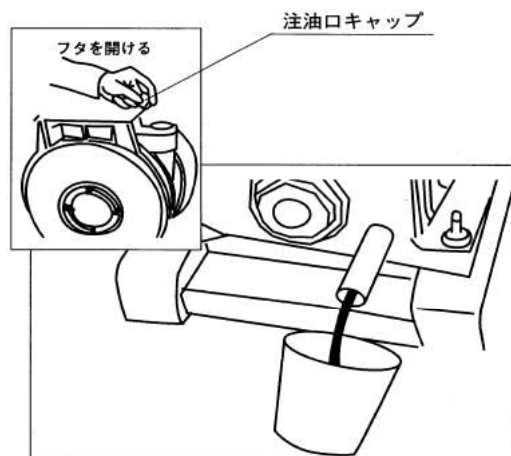
※潤滑不良で焼付きによる破損事故の原因となります。



油量の確認

【給油式の場合】

- 運転前に油量を確認し、不足している場合は、
給油(16ページを参照)を行なってください。
- 規定時間毎(20ページ保守点検一覧表参照)
にレシプロコンプレッサオイルを全量交換して
ください。
- 排油作業は、空気抜きのため注油口
キャップを外したうえ、排油口キャップ
を外して行ってください。



■ 運転中

⚠ 注意

運転状態の時は、操作部(運転スイッチ、空気止め弁、安全弁、ドレン抜き、
アンローダ)以外の部分に手を触れないでください。
※回転体でのけがや高温部での火傷の危険があります。



接触禁止

運転中に異常音(カンカン音や通常と異なる音)や
異常振動(目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ)が
発生した時は、直ちに本機の運転を停止し、
原因を取り除いてから運転を再開してください。



📄 お願い

夏期においても運転中周囲温度が40℃を超えないよう、換気に注意してください。
※機械の故障や寿命低下の原因となります。

日常運転の管理

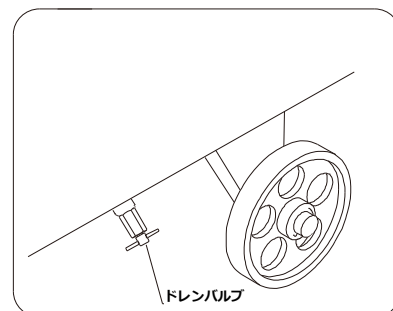
■ 運転終了

作業終了後、運転スイッチを切り、空気タンク内の圧縮空気を完全に放出してください。

- 不用意な止め弁解放による事故の原因となります。
- 圧力計の針上りの原因となります。

一週間に一度は、必ず圧縮空気を抜く前にドレンバルブを操作して空気タンクのドレンを排出してください。

- タンク内部の錆発生を減少させることができます。毎日実施することでより効果が上がります。
- 冬季にドレンの凍結によるドレンバルブ等の破損を防止できます。
- ドレン水の出が悪い場合にはドレンバルブの目詰まりを点検し必要により除去してください。
- ドレン排出時に場合により錆が混入いたしますが、鉄製タンクの材質特性によるものです。異常ではありません。



長期間(一週間以上)運転しない場合には下記の内容にて処置してください。

コンプレッサを正常にお使いいただく為に必ずお守りください。

【保管場所】・・・下記のような場所に保管してください。

- 湿気や塵埃(鉄粉・木屑・砂塵・粉塵)の少ない場所。
- 腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・亜硫酸ガスなど)が発生しない場所。

【ドレンの処理】

- 空気タンク内の圧縮空気が残っている間に、ドレンバルブを開けてドレンを完全に放出してください。最後に止め弁も全開にして圧縮空気を完全に抜いてください。錆の発生・圧縮空気によるシート部変形、摺動部不具合発生の防止となります。

【元電源】必ず切ってください。

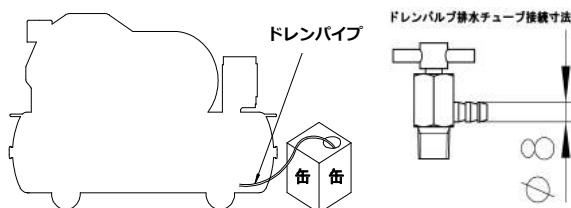
【定期運転】一か月毎に下記要領にて運転してください。

- (1) 圧力を上げる前に、止め弁を全開にして負荷をかけずに30分運転してください。
- (2) 昇圧して制御圧力範囲で正常に作動するか確認してください。
- (3) 停止後は上記の運転終了の処置をしてください。

注: 6か月以上通常運転を停止させた後に運転を再開する場合はメンテナンスが必要になります。お買い上げの販売店又は当社支店・営業所に連絡してください。

お願い【ドレンの処理法】

空気タンクのドレンの水分には油が含まれています。空の缶に排出して公害問題にならないように専門の業者に処分を依頼してください。(給油式の場合は必ずこの処理をしてください。)



保守点検

次の点検項目を定期的を実施してください。

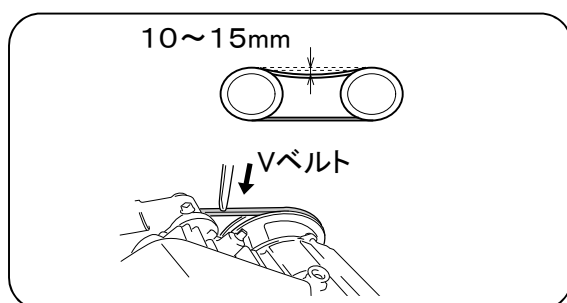
点検整備は、下記を基準に実施してください。表に掲げた点検整備基準は、標準的な使用の場合を想定していますので、使用条件が過酷な場合は、点検を早めてください。

標準的な使用状況とは、周囲温度は40℃以下でかつ年間平均温度30℃以下、運転時間は1日8時間、年間2,500時間を基準にしています。その他は設置注意事項によります。

- ◆例えば、24時間連続運転で年間200日稼働する場合は点検整備基準は表の半分の期間になります。
- ◆点検・整備は、運転時間または期間のいずれか早い方を基準に実施してください。
- ◆点検整備基準は、保証期間とは異なります。

■保守・点検一覧表

点検項目	点 検 整 備 基 準				点検要領
	毎日	1ヶ月毎	6ヶ月毎	1年毎	
	(24時間毎)	(200時間毎)	(1200時間毎)	(2500時間毎)	
空気タンクの ドレン抜き	○				点検方法は、P19を参照してください。
異常振動・異常音	○				異常のある場合は、P12, 18, 24を参照してください。
潤滑油の確認	○				給油式のみ。点検はP16を参照してください。 ※潤滑不良で焼付きによる破損事故の原因となります。
制御機器の作動 (圧力開閉器・アンローダ・ 圧力計)		○			異常のある場合は、P22を参照してください。
ボルト・ナット・ ネジ類の緩み		○			緩みのある場合は、適正な工具にて増し締めを してください。
ベルトの張り 具合と傷み		○		※	電源を切った停止中にベルトガードの隙間からベルト の傷やクラックを確認してください。運転開始直後に 極端なスリップ音が出ていないか、運転中にバツキ やベルトガードとの接触がないか確認してください。 ※ベルトの張り加減を確認。スパン中央部分を軽く 押し10～15mmへこむ位にしてください。(下図) 緩みのある場合は電動機をスライドさせて調整してください。 ※ベルトの摩耗、傷みのある場合は交換してください。
フィルタ (吸込口)		○		■	エアブローにより粉塵を除去(内側から外側に向か い)します。汚れがひどい場合は交換してください。
圧縮空気の漏れ				○	最高圧力で30分間放置し圧力低下が最高圧の 10%以内であるかを確認します。 ※降下が大きい場合は、点検・整備してください。
潤滑油の全量交換		初回	■		P16を参照してください。



○は、点検または清掃。消耗部品など不具合があった場合は交換します。

■は、必ず交換します。

注1. 保守・点検一覧表で※印のついた項目は、お客様において処理するのが困難な内容です。

お買い上げの販売店又は当社支店・営業所に連絡してください。

保守点検

	点検項目	点検整備事項				点検要領
		1ヶ月毎	1年毎	2年毎	4年毎	
		(200時間毎)	(2500時間毎)	(5000時間毎)	(10000時間毎)	
総合点検	電装品 圧力開閉器 モータ		○		■	接点の荒れ、電動機の絶縁抵抗(リード線とアース線の抵抗1MΩ以上)の点検をします。 堆積した塵埃を清掃します。 ※異常があれば交換してください。
	配管部品 接続管・ジョイント 樹脂チューブ		○			硬化・ひび割れなどを点検します。 異常があれば交換してください。 ※樹脂チューブは4年毎に交換してください。
圧縮機本体回りの点検	弁セット			○		※弁セットに付着したカーボンや摩耗粉を除去します。清掃できない場合は交換してください。
	リング・シート ゴムパッキン			○	■	※劣化(弾力なし)や変形を点検します。異常があれば交換してください。4年毎に交換してください。
	ピストンリング			○	■	【給油式】 ※幅90%に当たりがある場合は交換してください。 ※リングは、リングセットで交換してください。 【オイルフリー式】 ※摩耗を点検します。一部分でも厚みが2.5mm以下の場合 は交換します。4年毎にピストンセットで交換してください。
	ピストン			○	■	※リングシート面の付着物を除去・清掃します。 ピストン外周に深い傷があった場合は交換してください。
	シリンダ			○		※ピストンが摺動する面に深い傷や段付摩耗があった場合は交換してください。
	クランク軸セット (接続棒セット) (ベアリング)			○	■	【給油式】 ※回転状況を確認します。異常があれば交換してください。 【オイルフリー式】 ※ベアリングの点検を実施します。 異常があれば交換してください。 交換はクランク軸セット(接続棒セット・クランク軸・ ベアリングが含まれます)での交換となります。
	空気タンク		○			胴・鏡板等の腐れ、漏れ、ふくれ、クラックの有無を点検します。 ※不具合がある場合は交換してください。
	安全弁		○			漏れがないことを確認します。 ※漏れがある場合は交換してください。
	圧力計		○			タンク内に圧力がないことを確認し、指針が「ゼロ」を指示しているかを確認してください。 ※0.1MPa以上の針上がりのある場合は交換してください。

○は、点検。消耗部品など不具合あった場合は交換します。

■は、必ず交換します。

注1. 事業者は、使用開始後1年以内毎に空気タンクの点検事項を自主点検し、その結果を最低3年間は記録保存してください。(記録用紙は、本取扱説明書の26ページに添付してあります。)

空気タンクの容量が40L未満の場合には法的義務は有りませんが、安全上から実施することをお願いします。

注2. その他の消耗部品についても、点検整備時に異常あれば新品と交換してください。

基本的には、4年毎に無条件に交換の実施をお願いいたします。

注3. 保守点検一覧表で※印のついた項目は、お客様において処理するのが困難な内容です。お買い上げの販売店又は当社支店・営業所に連絡してください。

保守・点検

機能点検

圧力制御機器の設定圧力

アンローダ、圧力開閉器、安全弁の設定圧力は下表のとおりです。(単位 MPa)

設定圧力		最高圧力	
		0.7	1.0
アンローダ または 圧力開閉器	作動圧力	0.7 ⁰	1.0 ^{0.02}
	運転を止める圧力	-0.05	-0.02
	復帰圧力	0.55 ⁰	0.8 ^{0.02}
	運転を始める圧力	-0.06	-0.04
安全弁	吹き出し圧力	0.77 ⁰	1.08 ^{+0.02}
		-0.03	-0.05

アンローダまたは圧力開閉器の作動・復帰圧力、安全弁の吹き出し圧力が上記以外の場合、または漏れなどの異常がある場合は、ただちにご使用をやめて元電源を切り、圧縮空気を抜いてからお買い上げの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。

警告

コンプレッサおよびその部品・付属品は、指示がない限り、専門スタッフ以外による分解・調整等は一切しないでください。
※本体破損や火災あるいは爆発事故の原因となります。また、故障した場合でも保証の対象外となります。

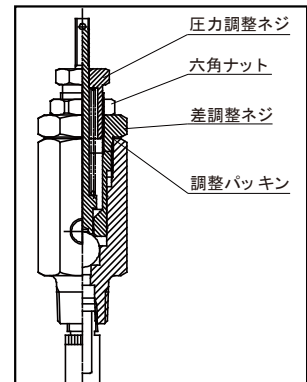


分解・調整を
禁止する

設定圧力は次の要領で調整することができます。

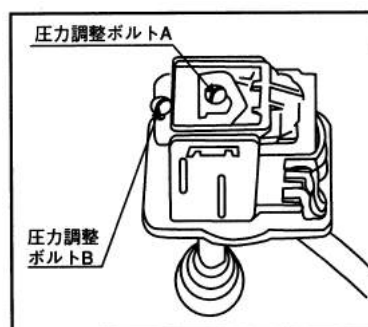
●アンローダ

調整内容		調整方法	備考
圧力の 高低調整	最高圧力を高く する場合	圧力調整ネジを 締め込む	圧力調整ネジは六角 ナットでロックして あります。 ロックを外して調整 を行なってください。
	最高圧力を低く する場合	圧力調整ネジを ゆるめる	
圧力の差 (作動圧力 幅)調整	圧力差を広くする 場合	調整パッキンを抜いて 締め増しをする	専門のサービス店で 処理することが 望ましい調整です。
	圧力差を狭くする 場合	調整パッキン部に 薄い紙パッキンを 加える	



●圧力開閉器

調整内容		調整方法
圧力の 高低調整	最高圧力を高く する場合	圧力調整ボルトA を右に回す
	最高圧力を低く する場合	圧力調整ボルトA を左に回す
圧力の差 (作動圧力 幅)調整	圧力差を広くする 場合	圧力調整ボルトB を左に回す
	圧力差を狭くする 場合	圧力調整ボルトB を右に回す

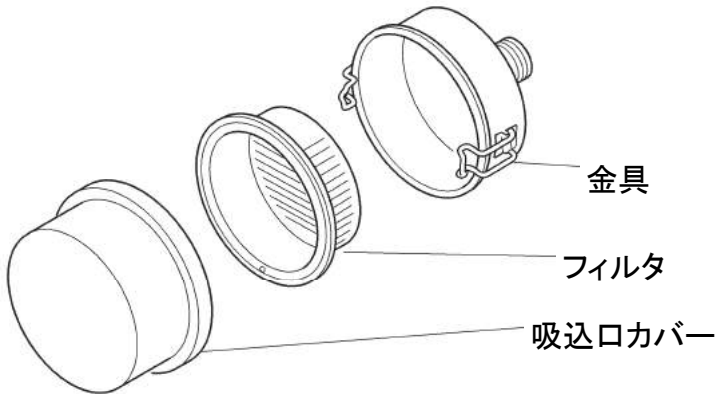


保守・点検

■点検・清掃上の注意

- エアフィルタの交換 フィルタの形状は形式によって異なります。

汚れがひどい場合には交換します。金具を広げ、カバーを開けて中のフィルタを交換します。



形式により フィルタのカバーをねじ止めしてある形式もあります。

ワンポイント



フィルタには上下の区別はありません。フィルタを新しくすることで吸気をスムーズにし吸気効率をアップします。定期的に変換しましょう。

- 各製品の摺動面・パッキン面・はめ合い部分を傷つけたり、変形させないよう取り扱いには十分気をつけてください。

■組立上の注意

【給油式の場合】

- 各部品を揮発油などで清掃し、完全に乾燥してから組み付けてください。

ピストンリングは順序と上下方向の間違いのないようピストンに組み込みをしてください。

※注意:ピストンリングをピストンに組み込みの際は、必ず“Nマーク”の刻印を上にして組み込んでください

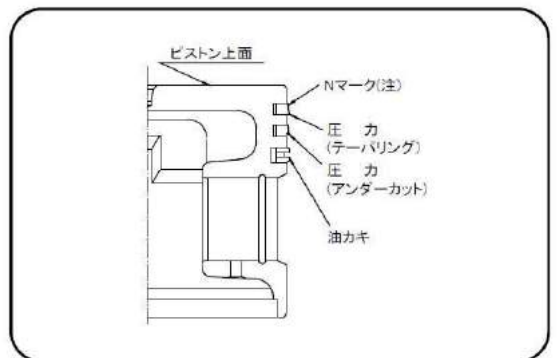
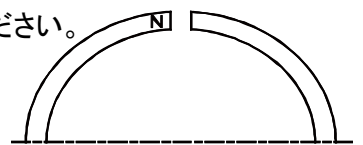
摺動部には、専用コンプレッサオイルを十分に塗布してください。クランク室に組み付ける、軸受箱および、シリンダの取り付け面には、液状ガスケットを均一に塗り、取り付けてください。

※液状ガスケットは専用品(96990618)をご使用ください。

※塗布面の油分は十分にふき取ってください。

シリンダは組み付けた後、横に滑らせないように、すぐにボルトで固定してください。

Nマーク



【オイルフリー式の場合】

- 各部品は軟らかい布などで清掃してから組み付けてください。

ピストンリングは上下の区分はありません。ピストンは落下させたり、ぶついたりした場合、内部にクラックが発生する可能性があります。その場合には使用せず、新品と交換してください。

【組立が完了したら 給油式・オイルフリー式 共に】

- 組み付け完了後、手でプーリーを回し軽く回すことを確認してから運転を開始してください。

※給油式は、コンプレッサオイルを忘れずに入れてから運転をしてください。



お願い

- 保守点検一覧表で※印のついた項目は、お客様において処理するのが困難な内容です。お買いあげの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。

■部品の購入について

部品をご購入の際は、本機の形式と付属の立体分解図と部品表を参考にして、必要な部品名と部品番号をご指定のうえ、お買いあげの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。

故障かな？と思ったら

●万一異常が起こった場合には、まず、お客様にて下表を参考にして点検してください。
原因が特定できない場合、原因が特定できてもお客様では対応が難しい場合は、お手数ですが
お買い上げの販売店または、当社支店・営業所にご相談ください。

■コンプレッサ

症状	原因	対応方法
始動しない または始動し ても電動機 がうなる	元電源が投入されていない。	元電源を投入する。
	タンクに圧力があり圧力開閉器が 作動している。	空気タンクの圧力を作動圧力以下に下げ、始動を確認する。 (作動圧力についてはP22を参照)
	元電源のヒューズが切れている。 または、ブレーカがダウンしている。	ヒューズボックス・ブレーカの焼損などがないことを確認してヒューズを交 換、または、ブレーカを入れ直す。感電には十分に注意願います。
	電源コードが断線している。	電源コードを交換する。 注意1参照
	電源コードが外れている。結線場所が 間違っている	P15を参照し、配線を直す。 注意1参照
	単相運転となっている。 (3相形式の場合)	電源コード・電動機コードを確認し、ネジの緩みや配線を直す。 または、交換する。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下が大きい)	P15を参照し、電源コード太さを確認する。細い場合は交換する。 電源電圧／電圧降下を測る。 電源の容量を確認する。容量が足りない場合は、電力会社に相談する。
元電源のヒューズ 切れ・ブレーカーダ ウンが発生する	元電源のヒューズ・ブレーカの容量が 足りない。	電動機電流値に対して、十分な容量のヒューズ・ブレーカに交換する。
	電源コードの破損等によるショートが 発生した。	電源コードの状態と結線を確認する。破損していれば交換する。
制御圧力上限に達 する前に停止する	圧力開閉器またはアンローダの調整不良	調整を依頼する。(P22を参照)
	圧力計が故障している。	新品に交換する。 注意2参照
安全弁が吹く	安全弁の吹出し圧力が変化している。	設定圧力外で吹く場合は調整を依頼する。(P22を参照)
	電源コードの接続位置が間違っている。	P15を参照して、電源コードを正しく接続する。
圧力が上がらない または圧力上昇に 時間がかかる	ドレンバルブまたは使用しない止め弁 の閉め忘れ。	締め直す。 締めても漏れる場合は、交換する。
	設備配管から漏れている。	漏えい部を修理する。
	各部の継ぎ手ねじ部から漏れている。	締め直す。
	フィルタが目づまりしている。	フィルタの清掃または交換する。
	ベルトがスリップしている。	ベルトの再張りをする。ベルトの傷みがひどいときは交換する。
安全弁から漏れている。 (安全弁のシート部分からの漏れ)	お買い上げの販売店または、当社支店・営業所にご相談ください。	
異常振動又は異常 音がする	据付に不良がある。	P12の設置方法に従い水平に据付ける。
	部品の取り付けにゆみがある。	部品取付ねじの締め直しをする。
ドレンバルブから水 も空気もでない	ドレンパイプ・ドレンバルブが詰まっている。	ドレンパイプ・ドレンバルブを点検・清掃をする。 注意2参照
	タンク・ドレン配管の内部が凍結している。	暖めて解凍する。設置環境を確認する。(P12を参照)

注意1 電源回りの部品の点検・分解・交換をする場合は必ず元電源を切ってから行ってください。
注意2 配管回りの部品の点検・分解・交換する場合はタンク内の圧縮空気を全て抜き、元電源を切っ
てから行ってください。

法律による届出

コンプレッサの設置、使用に際しては、安全および公害対策上、法規の適用をうけて、各種の届出、規制基準の遵守義務が生じる場合があります。

■参考法規

■労働安全衛生法に基くもの

●労働安全衛生規則の安全基準

ベルト覆の取付

・危害をうける恐れのある回転部分には、ベルト覆または囲い等を設けること。

（例）パッケージなしの状態での運転はしないこと。

アース線の取付

・漏電による感電災害を防止するため、感電防止用漏電ブレーカの接続またはモータの金属製外皮部分からアースを設けること。

（例）モータで専用の接地端子から接地極（確実に大地と接続していること）に接続。

●圧力容器安全規則による設置報告および安全維持

掃除および点検

定期自主検査

・使用者は毎年1回以上次の事項について定期自主検査を行い、その結果を記録し、3年間保管しておくこと。

①本体の損傷の有無

②蓋の締め付けボルトの摩耗の有無

③管および弁（ボールバルブ、安全弁）の損傷の有無

※TLPC07BF-10、TFPC07BF-10、TFPC07B-10、PFU07-7、PLU15BF-7に関しては、法律の対象となる第二種圧力容器は使用しておりませんので法律による義務はありません。

しかし、お客様に安全に正しく使用して頂く為、定期的な自主検査を行う事をお勧めします。

●罰則（参考）

前記の規則に違反した場合には、改善勧告、使用停止処分、懲役もしくは罰金が課せられます。

■公害防止条例（振動および騒音発生の規制）による設置届

・コンプレッサで駆動定格出力7.5kW以上の製品は、条例によって定められた指定地域において特定施設として届出が必要です。

各都道府県により基準が異なりますので工場、事業所の所在地の区、市役所および町村役場の公害担当窓口で確認してください。

届出	・新設届（新しく設置しようとする場合） ・数などの変更届（コンプレッサの台数および種類を変更する場合） ・騒音防止方法変更届（発生騒音の防止方法を変更する場合）
届出期日	設置（変更）の工事開始の30日前
届出場所	工場、事業所の所在する区、市役所および町村役場の公害担当窓口

・コンプレッサで7.5kW未満のものでも、各県の条例による規制による騒音発生施設の設置（または変更）の届出が必要になる場合があります。

各都道府県により基準が異なりますので工場、事業場の所在地の区、市役所および町村役場の公害担当窓口で確認してください。

第二種圧力容器点検記録

記録用紙がいっぱいになった場合は、同内容の記録票を作成し、引き続き記録してください。

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目および点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管および弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目および点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管および弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目および点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管および弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目および点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管および弁の損傷						

立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 F07-10 SP)

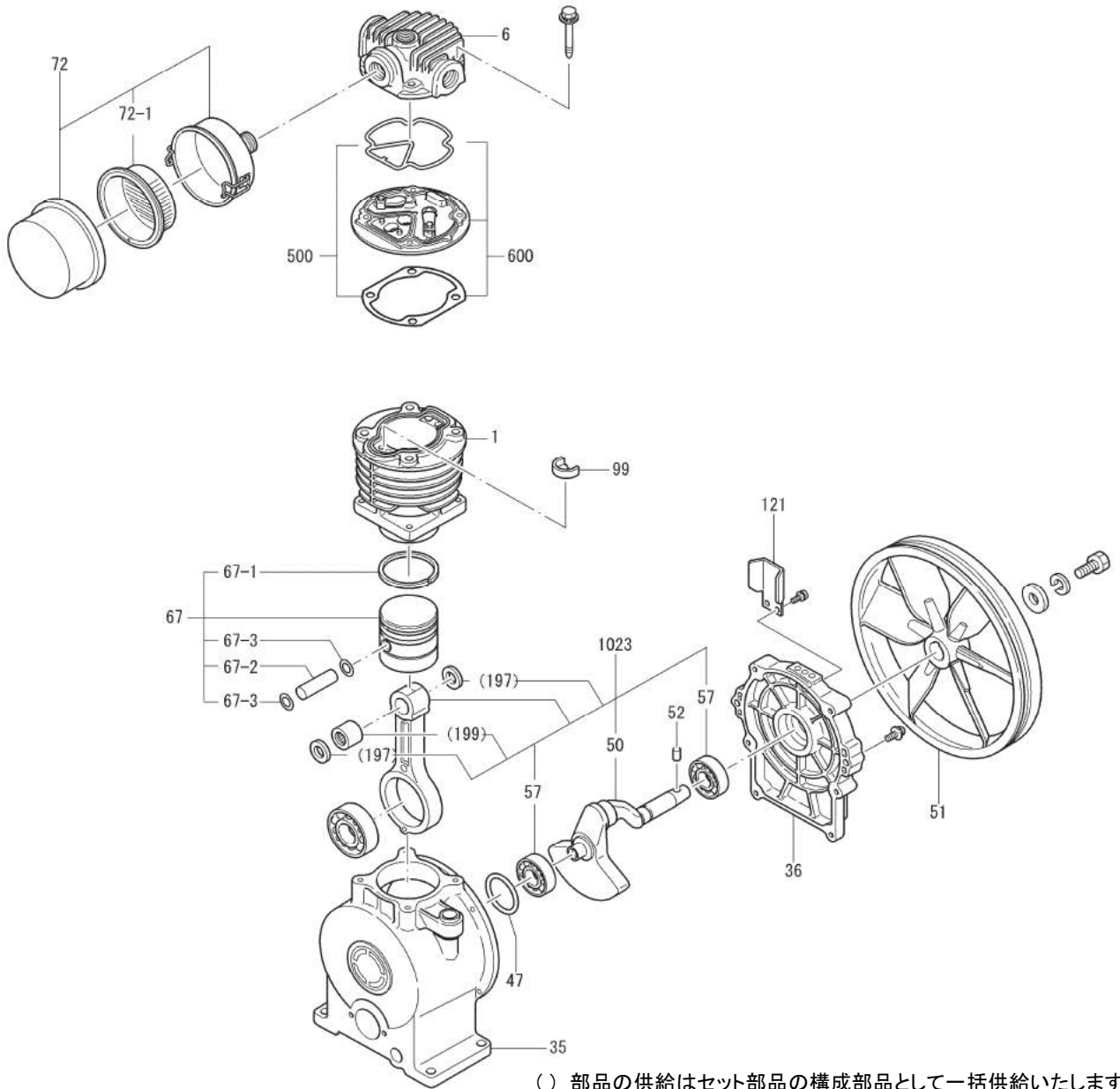
部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	1	57	ラジアル玉軸受	2	121	ダストカバー	1
6	シリンダカバー	1	67	ピストンセット	1	197	オイルシール※	2
35	クランク室	1	67-1	ピストンリング※	1	199	ニードルベアリング	1
36	軸受箱	1	67-2	ピストンピン	1	500	パッキンセット※	1
47	ゴム棒※	1	67-3	Oリング※	2	600	パッキン付弁セット	1
50	クランク軸	1	72	吸込口セット	1	1023	クランク軸セット	1
51	フライホイールプーリ	1	72-1	フィルタ※	1			
52	平行ピン	1	99	シート※	1			

※印の部品名は消耗品です。

※図の形状は機種により異なります。

●分解図



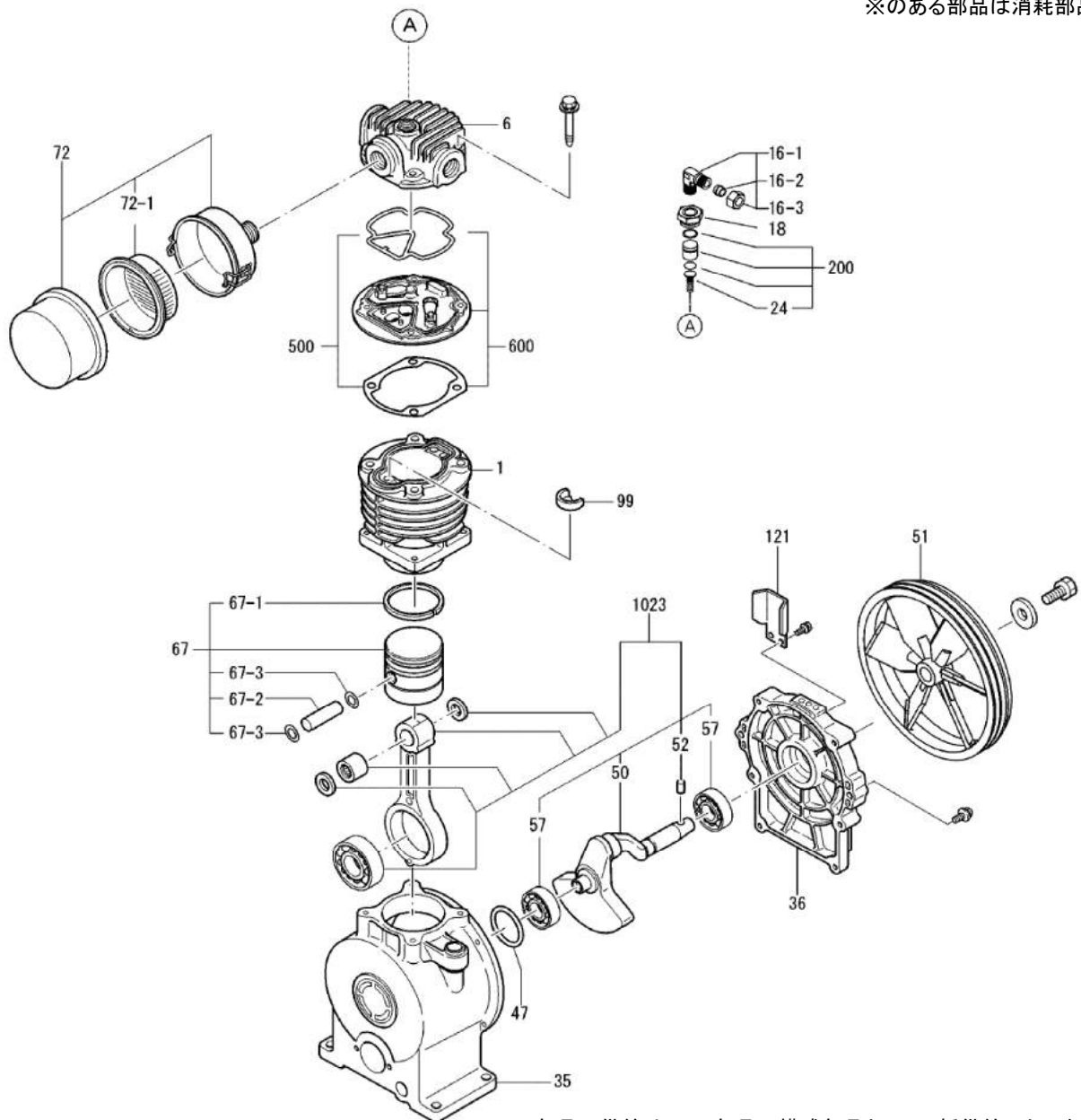
立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 F07-10 SU)

部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	1	50	クランク軸	1	99	シート※	1
6	シリンダカバー	1	51	フライホイールプーリ	1	121	ダストカバー	1
16-1	エルボユニオン	1	52	平行ピン	1	197	オイルシール※	2
16-2	スリーブ	1	57	ラジアル玉軸受	2	199	ニードルベアリング	1
16-3	袋ナット	1	67	ピストンセット	1	200	アンローダセット※	1
18	アンローダキャップ	1	67-1	ピストンリング※	1	500	パッキンセット※	1
24	バネガイドセット	1	67-2	ピストンピン	1	600	パッキン付弁セット	1
35	クランク室	1	67-3	Oリング※	2	1023	クランク軸セット	1
36	軸受箱	1	72	吸込口セット	1			
47	ゴム棒※	1	72-1	フィルタ※	1			

※のある部品は消耗部品です。



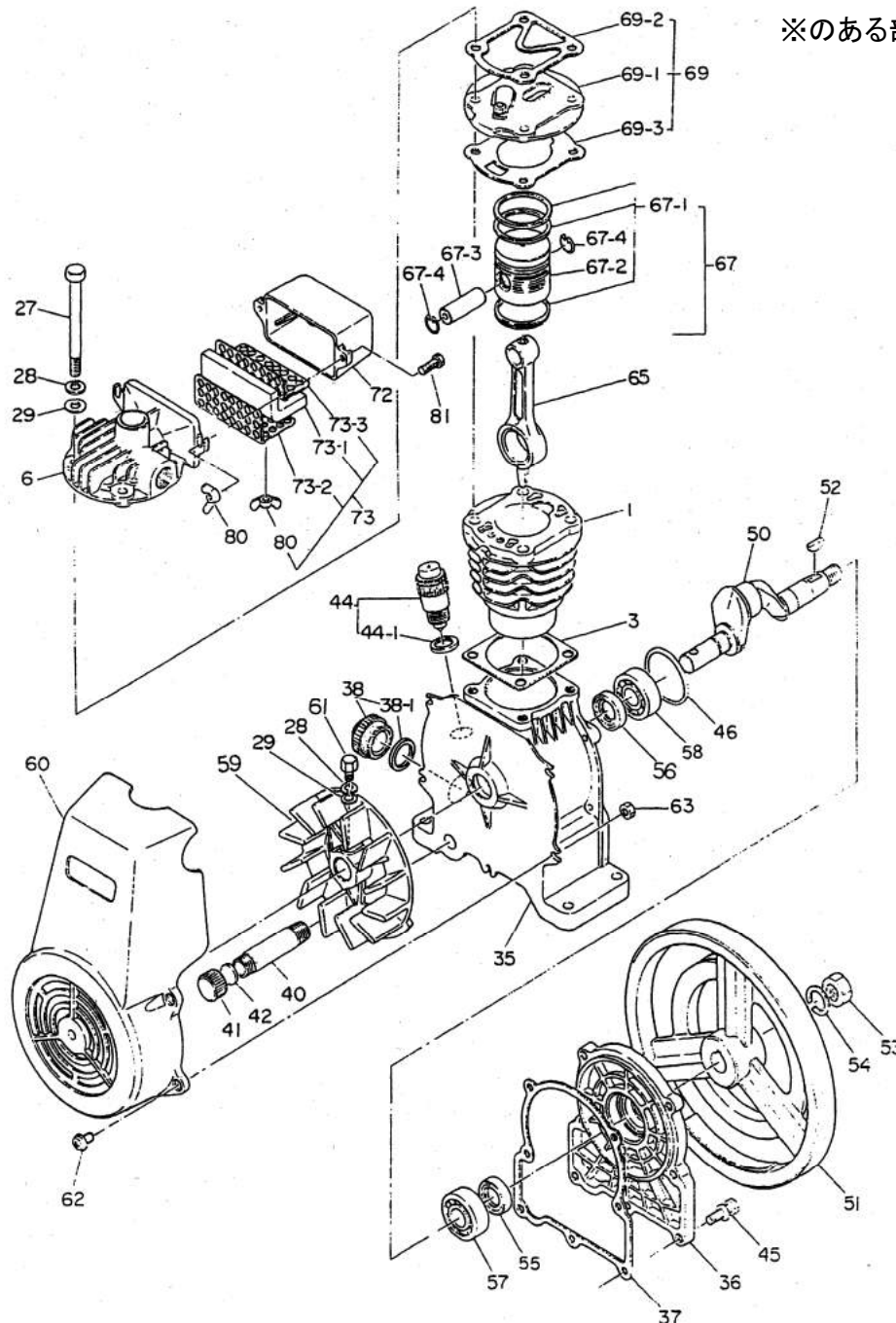
() 部品の供給はセット部品の構成部品として一括供給いたします。

立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 CS-150P SP)

部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	1	40	オイル抜パイプ	1	57	ラジラル玉軸受	1	67-4	リティナ	2
3	シリンダパッキン※	1	41	オイル抜盲蓋	1	58	ラジラル玉軸受	1	69	パッキン付弁セット	1
6	シリンダカバー	1	42	オイル抜盲蓋パッキン※	1	59	ファン※	1	69-1	弁セット	1
27	六角ボルト	4	44	ブリーザセット	1	60	カバー	1	69-2	シリンダヘッドパッキン※	1
28	バネ座金	4	44-1	注油口蓋パッキン※	1	61	高力六角ボルト	1	69-3	バルブスペーサパッキン※	1
29	平座金	4	45	座金組込ボルト	7	62	座金組込ネジ	4	72	吸込濾過器カバー	1
30	バネ座金	1	46	ゴム棒※	1	63	六角ナット	4	73	濾層セット	1
31	平座金	1	50	クランク軸	1	64	Oリング※	8	73-1	吸込濾過器濾層※	1
35	クランク室	1	51	フライホイールプーリ	1	65	連接棒	1	73-2	濾層支え板(1)	1
36	軸受箱	1	52	半月キー	1	67	ピストンセット	1	73-3	濾層支え板セット	1
37	軸受箱パッキン※	1	53	六角ナット	1	67-1	ピストンリングセット※	1	80	蝶ナット	3
38	油量計セット	1	55	オイルシール※	1	67-2	ピストン	1	81	六角ボルト	2
38-1	パッキン※	1	56	オイルシール※	1	67-3	ピストンピン	1			



※のある部品は消耗部品です。

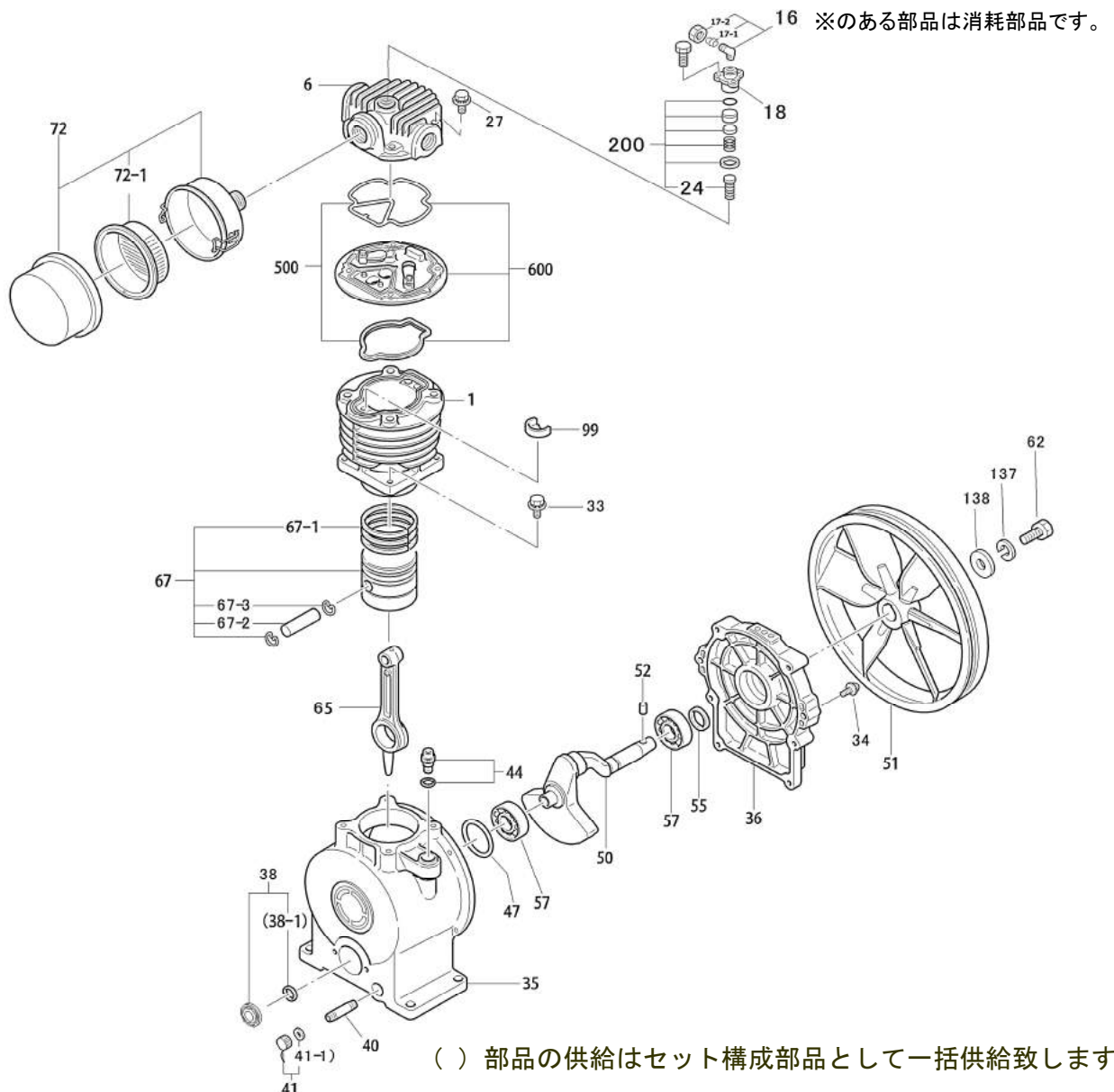
() 部品の供給はセット構成部品として一括供給致します。

立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式L15-10)

部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	1	52	平行ピン	1
6	シリンダカバー	1	55	オイルシール※	1
16	エルボユニオン	1	57	ラジアル玉軸受※	2
17-1	スリーブ	1	62	高力六角ボルト	1
17-2	袋ナット	1	65	接続棒	1
18	アンローダキャップ	1	67	ピストンセット	1
24	バネガイドセット	1	67-1	ピストンリング※	1
27	座金組込ボルト	4	67-2	ピストンピン	1
33	座金組込ボルト	4	67-3	Oリング※	2
34	座金組込ボルト	4	72	吸込口セット	1
35	クランク室	1	72-1	フィルタ※	1
36	軸受箱	1	84	タッピンネジ	2
38	油量計セット	1	99	シート※	1
40	オイル抜パイプ	1	121	ダストカバー	1
41	オイル抜盲蓋	1	137	バネ座金	1
41-1	オイル抜盲蓋パッキン※	1	138	平座金	1
44	プリーザセット	1	200	アンローダセット※	1
47	ゴム棒※	1	500	弁パッキンセット※	1
50	クランク軸	1	600	パッキン付弁セット	1
51	フライホイールプーリ	1			



立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 TLPC07BF-10)

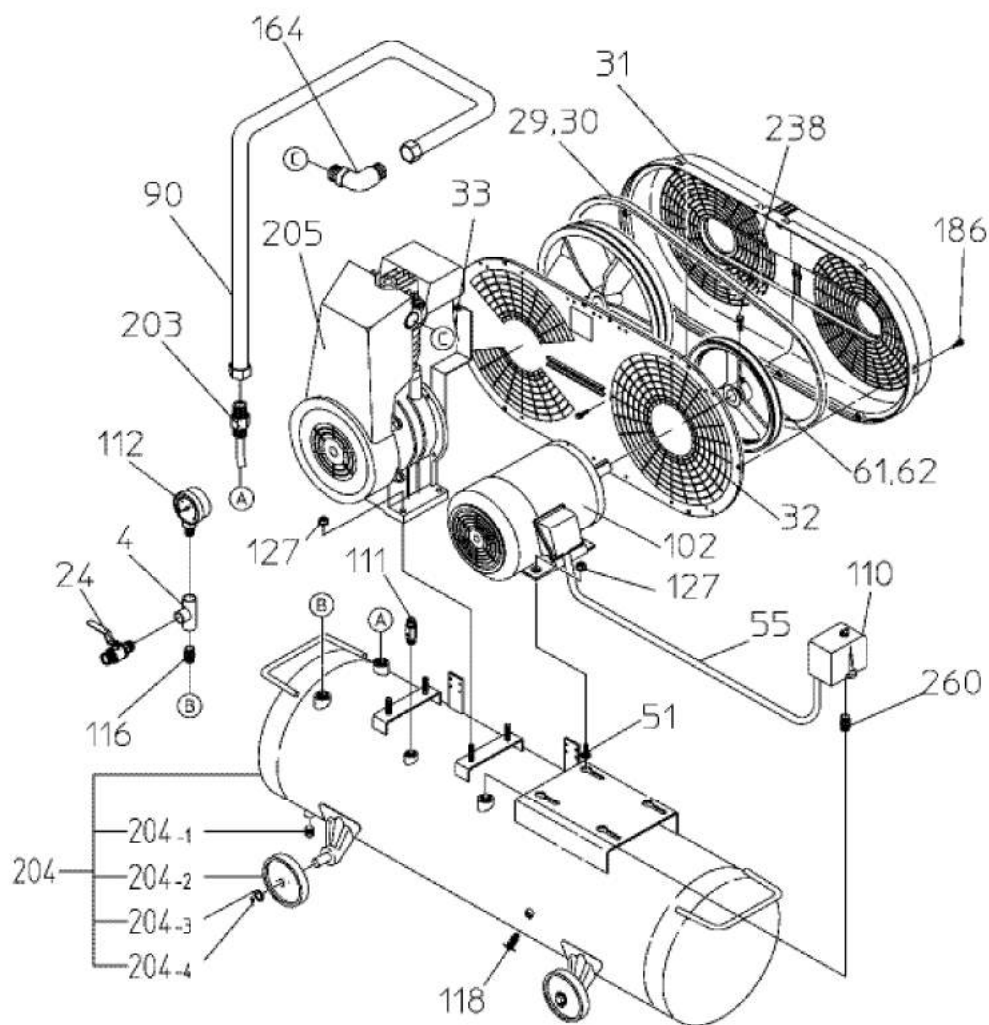
仕様

形式	TLPC07BF-10
レシプロコンプレッサ形式	CS-150P SP
運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	0.75
回転速度 min ⁻¹	1150
吐出し空気量 L/min	75
吐出圧力 MPa	1.0
空気タンク容量 L	39
空気出口管径	1/4×1
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	775×350×690
質量 kg (電動機含む)	49
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	74

部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
4	チー	1	※112	圧力計	1
24	ボールバルブ	1	116	ニップル	1
※29	Vベルト(50Hz)	1	118	ドレンバルブ	1
※30	Vベルト(60Hz)	1	127	フランジ付六角ナット	8
31	ベルトガード(1)	1	164	エルボユニオン	1
32	ベルトガード(2)	1	186	タッピンネジ	8
33	ベルトガード吊ステー	1	203	ジョイントセット	1
51	ボルト	4	204	空気タンクセット	1
55	電動機コード	1	204-1	プラグ	1
61	電動機プーリ(50Hz)	1	204-2	車輪	4
62	電動機プーリ(60Hz)	1	204-3	座金	4
90	接続管セット	1	204-4	割ピン	4
102	モータ	1	205	レシプロコンプレッサ	1
※110	圧力開閉器	1	238	高力六角ボルト	1
111	安全弁	1	260	ニップル	1

※のある部品は消耗部品です。



立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 TFU07BF-7 TFU07-7)

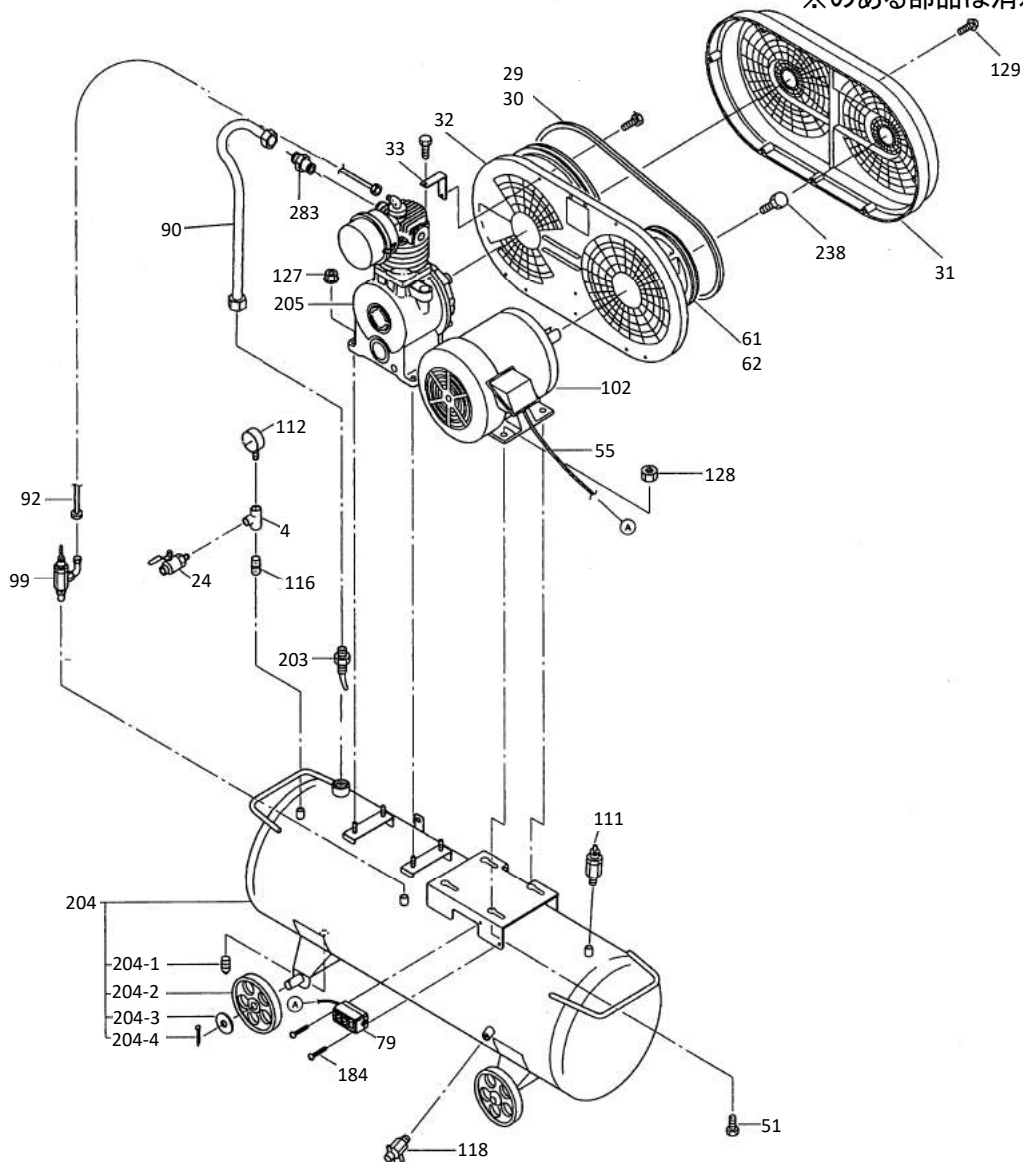
仕様

形式	TFU07BF-7	TFU07-7
レシプロコンプレッサ形式	F07-10 SU	
運転制御方式	アンローダ制御	
出力 kW	0.75	
回転速度 min ⁻¹	1640	
吐出し空気量 L/min	97	
吐出圧力 MPa	0.7	
空気タンク容量 L	50	
空気出口管径	1/4×1	
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	800×375×735	800×382×725
質量 kg (電動機含む)	55	60
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	74	

部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
4	チー	1	※112	圧力計	1
24	ボールバルブ	1	116	ニップル	1
※29	Vベルト(50Hz)	1	118	ドレンバルブ	1
※30	Vベルト(60Hz)	1	127	フランジ付六角ナット	4
31	ベルトガード(1)	1	128	フランジ付六角ナット	4
32	ベルトガード(2)	1	129	タッピンネジ	8
33	ベルトガード吊ステー	1	184	タッピンネジ	2
51	ボルト	4	203	ジョイントセット	1
55	電動機コード	1	204	空気タンクセット	1
61	電動機プーリ(50Hz)	1	204-1	プラグ	1
62	電動機プーリ(60Hz)	1	204-2	車輪	4
79	押しボタン開閉器	1	204-3	座金	4
90	接続管セット	1	204-4	割ピン	4
92	アンローダパイプ	1	205	レシプロコンプレッサ	1
99	アンローダセット	1	238	高力六角ボルト	1
102	モータ	1	283	フレアジョイント	1
111	安全弁	1			

※のある部品は消耗部品です。



立体分解図

●レシプロコンプレッサ (形式 TFP07BF-10 TFP07B-10 TFPC07BF-10 TFPC07B-10)

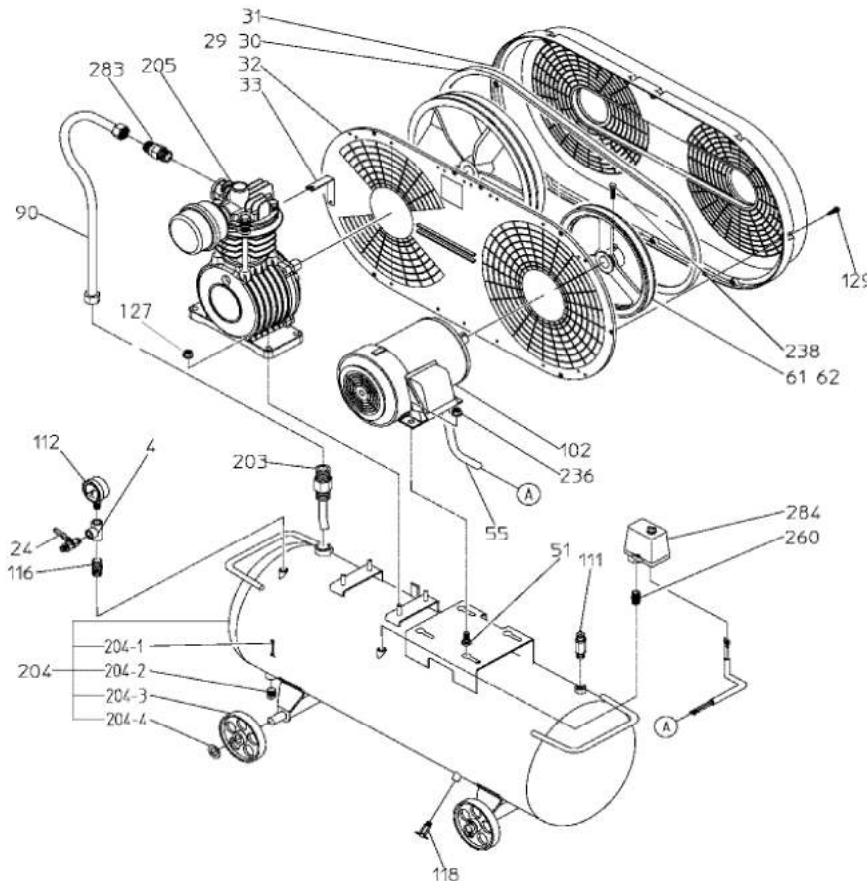
仕様

形式	TFP07BF-10	TFP07B-10	TFPC07BF-10	TFPC07B-10
レシプロコンプレッサ形式	F07-10 SP			
運転制御方式	圧力開閉器制御			
出力 kW	0.75			
回転速度 min-1	1540			
吐出し空気量 L/min	75			
吐出圧力 MPa	1.0			
空気タンク容量 L	50		39	
空気出口管径	1/4 × 1			
外形寸法 mm (幅 × 奥行 × 高さ)	800 × 375 × 710	800 × 382 × 705	775 × 382 × 680	770 × 350 × 675
質量 kg (電動機含む)	55	55	50	55
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	74			

部品表

番号	部品名	個数
4	チー	1
24	ボールバルブ	1
※29	Vベルト(50Hz)	1
※30	Vベルト(60Hz)	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ベルトガード吊ステー	1
51	ボルト	4
55	電動機コード	1
61	電動機ブーリ(50Hz)	1
62	電動機ブーリ(60Hz)	1
90	接続管セット	1
102	モータ	1
111	安全弁	1
※112	圧力計	1
116	ニップル	1
118	ドレンバルブ	1
127	フランジ付六角ナット	4
128	フランジ付六角ナット	4
129	タッピンネジ	8
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
204-1	プラグ	1
204-2	車輪	4
204-3	座金	4
204-4	割ピン	4
205	レシプロコンプレッサ	1
238	高力六角ボルト	1
260	ニップル	1
283	フレアジョイント	1
※284	圧力開閉器	1

※のある部品は消耗部品で

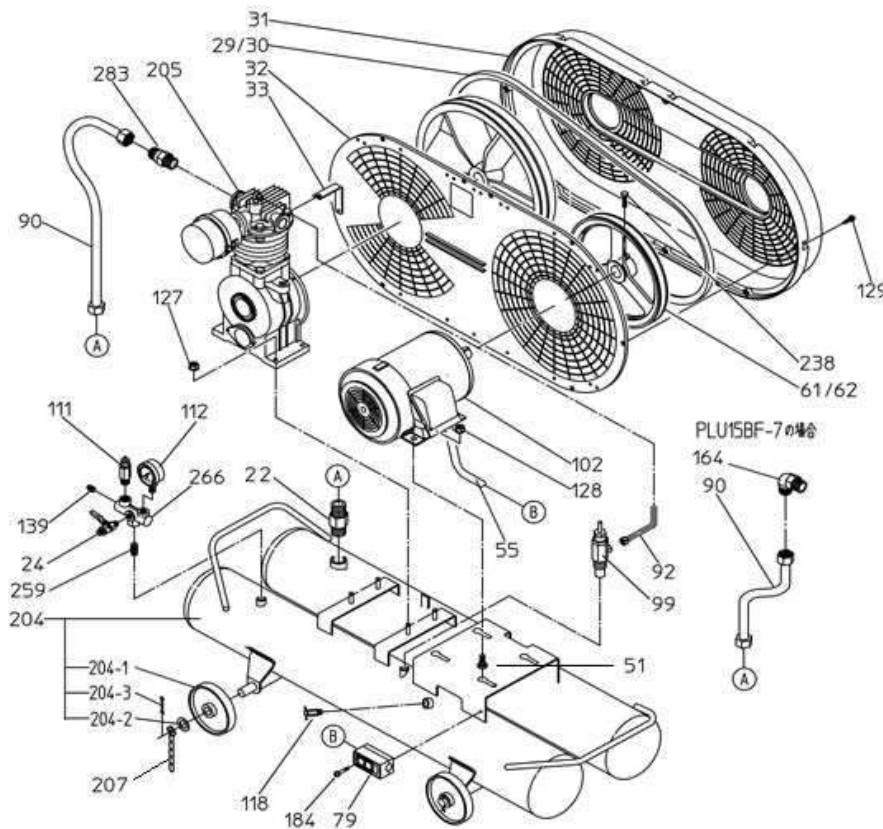


立体分解図

●レシプロコンプレッサ(形式 PFU07-7 PLU15BF-7)

仕様	①	②
形式	PFU07-7	PLU15BF-7
レシプロコンプレッサ形式	F07-10 SU	L15-10
運転制御方式	アンローダ制御	
出力 kW	0.75	1.5
回転速度 min-1	1640	1310
吐出し空気量 L/min	97	195
吐出圧力 MPa	0.7	
空気タンク容量 L	11	
空気出口管径	1/4×1	
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	840×380×545	840×356×620
質量 kg (電動機含む)	45	55
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	71	68

部品表		個数	
番号	部品名	①	②
22	フレアジョイント	1	1
24	ボールバルブ	1	1
※29	Vベルト(50Hz)	1	1
※30	Vベルト(60Hz)	1	1
31	ベルトガード(1)	1	1
32	ベルトガード(2)	1	1
33	ベルトガード吊ステー	1	1
51	ボルト	4	4
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ(50Hz)	1	1
62	電動機プーリ(60Hz)	1	1
79	押しボタン開閉器	1	1
90	接続管セット	1	1
92	アンローダパイプ	1	1
99	アンローダセット	1	1
102	モータ	1	1
111	安全弁	1	1
※112	圧力計	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
127	フランジ付六角ナット	4	4
128	フランジ付六角ナット	4	4
129	タッピンネジ	8	8
139	プラグ	1	1
164	特殊エルボ	0	1
184	タッピンネジ	3	3
204	空気タンクセット	1	1
204-1	ソリッドタイヤ	4	4
204-2	座金	4	4
204-3	割ピン	4	4
205	レシプロコンプレッサ	1	1
238	高力六角ボルト	1	1
259	バレルニップル	1	1
266	分岐ジョイント	1	1
270	鎖	1	1
283	フレアジョイント	1	0



※のある部品は消耗部品です。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

保証と修理サービス

保証について

保証書 (保証規定)

お買いあげの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用で万一故障が起きましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	品名	コンプレッサ
お客様	御社名	
	お名前	
	〒□□□□-□□□□ ご住所	
	TEL () -	FAX () -
保証期間	お買いあげ日 年 月 日から 「1年間」または「2,500時間」 のいずれか先に到着した期間を「保証期間」とします。	
販売店	販売店名	
	〒□□□□-□□□□ ご住所	
	TEL () -	FAX () -

◇無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示のうえお買いあげの販売店又は当社支店・営業所にご依頼ください。
- (2) 本保証書に記入した内容(お買いあげ日、販売店)を確認できる納品書等を提示願います。
- (3) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証は致しません。

◇次の場合は保証期間内でもお客様のご負担(有償)になります。

- (1) 本保証書のご提示が無い場合
- (2) 本保証書にお名前、お買いあげ日、販売店名の記載が無い、あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理
- (5) 指定外の動力源(電圧、周波数、燃料他)又は天災・地変(火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など)による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 製品を無断で改造している場合
- (8) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

◇法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従って、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またはご不明な点はお買いあげの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

◇保証書の保管

- 「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買いあげ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様にご記入していただき、納品書と共に大切に保管して下さるようお願いいたします。
- 本保証書は紛失されても再発行しませんので、大切に保管してください。

保証と修理サービス

修理サービスについて


修理を依頼されるときは

- 修理はお買いあげの販売店又は当社支店・営業所にご相談ください。
このときお買いあげの商品の形式名およびお買いあげの時期をお知らせください。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、
お客様のご要望により有料にて修理いたします。
- 詳しくはお買いあげの販売店にご相談ください。
また、その他ご不明な点は当社支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。
最新のお問い合わせ先につきましては当社ホームページ<http://www.anest-iwata.co.jp>をご覧ください


お問い合わせ先

➤ 電話でのお問い合わせ

- ・コンプレッサ、窒素ガス発生装置、真空ポンプ、DIY 商品
に関するお問い合わせ

 **0800-111-9681**

- ・その他、上記以外に関するお問い合わせ

 **0120-917-144**

受付時間： 9:00～12:00/13:00～17:00

但し、土日・祝日・弊社指定休日を除く。

➤ メールでのお問い合わせ

当社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。



<http://www.anest-iwata.co.jp>

 **アネスト岩田株式会社**

〒223-8501横浜市港北区新吉田町3176

01770457
C013-02